2005 子どもゆめ基金® ガイド

独立行政法人
国立オリンピック記念青少年総合センター

子どもゆめ基金

目次

「子どもゆめ基金」について　1

「子どもゆめ基金」の概要　2

平成17年度　応募・採択状況　4

平成13～16年度　応募・採択状況　6

平成16年度助成活動事例（子どもの体験活動）　7

平成16年度助成活動事例（子どもの読書活動）　27

平成16年度助成活動事例（教材開発・普及活動）　36

普及啓発事業の実例　38

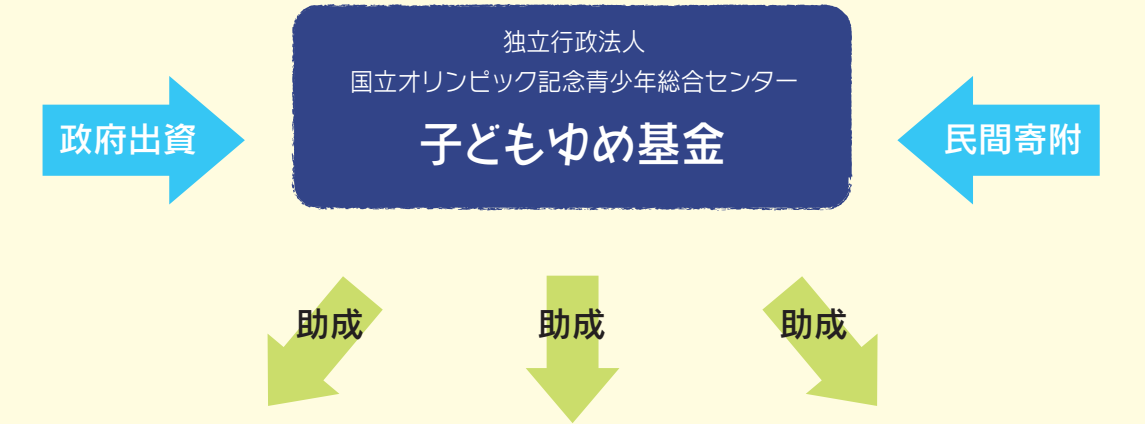
「子どもゆめ基金」への寄附団体　40

「子どもゆめ基金」について

今日、社会全体のモラルの低下、地域社会の教育力の低下、メディア上の有害情報の氾濫など子どもたちを取り巻く環境が大きく変化しており、自分自身で考え創造する力、他人への思いやりの精神が身についていないと指摘されています。また、子どもたちの社会性を育成する観点から、自然体験活動等の体験活動の充実や、言葉の教育の重視などが提言されております。

このような状況を踏まえて、「子どもゆめ基金」は、超党派の国会議員により構成される「子どもの未来を考える議員連盟」が子どもの未来のために有意義な基金の創設を発意し、同議員連盟が中心となって検討を進めてきたものを受け、平成13年4月に独立行政法人国立オリンピック記念青少年総合センター法が改正され、さらに、平成13年度政府予算において措置された政府からの出資金100億円に加え、民間からの寄附を原資とする基金として創設されました。

この基金は、21世紀を担う夢を持った子どもの健全な育成の一層の推進を図ることを目的に、民間団体が実施する特色ある新たな取り組や、体験活動等の裾野を広げるような活動を中心に、様々な体験活動や読書活動等への支援を行っています。



子どもの体験活動を支援

子どもの読書活動を支援

子ども向け教材開発・普及活動を支援

「子どもゆめ基金」の概要

助成金の交付

助成対象活動

子どもの体験活動の振興を図る活動への助成

活動例

①子どもを対象とする体験活動
- 自然観察、キャンプなどの自然体験活動
- 清掃活動、高齢者介護体験などの社会奉仕体験活動　など

②子どもの体験活動を支援する活動
- 子どもの体験活動の指導者養成　など

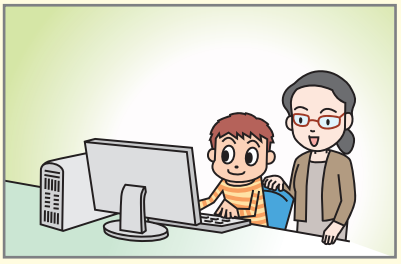
子どもの読書活動の振興を図る活動への助成

活動例

①子どもを対象とする読書活動
- 読書会活動、読み聞かせ会　など

②子どもの読書活動を支援する活動
- 子どもの読書活動の振興を図るフォーラムの開催　など

子ども向けソフト教材を開発・普及する活動への助成



活動例

- 子どもの体験活動や読書活動を支援・補完する、インターネット等で利用可能なデジタル教材を開発し、普及する活動

助成対象団体

民法法人、NPO法人など青少年教育に関する事業を行う民間の団体

普及啓発

子どもの体験活動や読書活動の振興を図るための普及啓発

助成金の額

個別の助成活動に対する助成金の額は、予算の範囲内で、審査委員会の議を経て決定されます。

審査方法

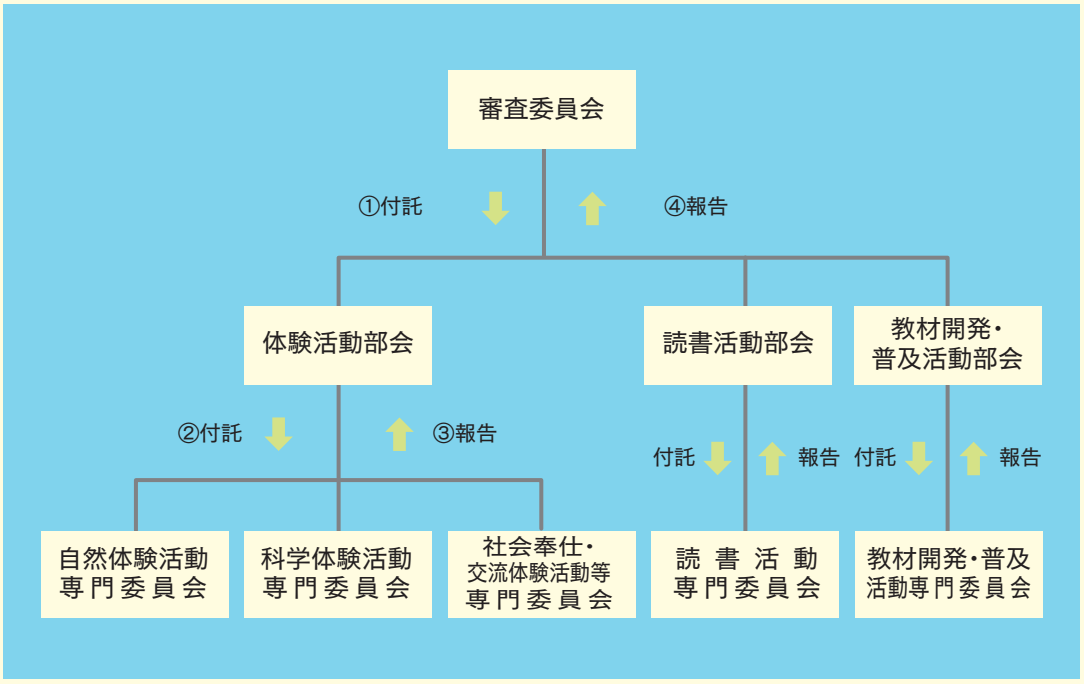
子どもゆめ基金における助成対象活動の決定については、子どもゆめ基金による助成金の交付を適正に行うため、自然体験活動や社会奉仕体験活動等の体験活動、読書活動、教材開発などの分野において実務経験を持ち、かつ青少年教育に高い識見を有する15名の委員で構成する「子どもゆめ基金審査委員会」を設置し、そのもとに各分野別の実情及び特性を踏まえて審査を行います。

応募のあった活動については、センター理事長から審査委員会へ助成活動の採択について諮問を行い、これを受けて審査委員会から部会へ、さらに専門委員会へと順次調査審議の付託を行います。

専門委員会の審査は、審査委員会で決定された「子どもゆめ基金助成活動の審査の方法等について」に則り、各団体から提出のあった助成金計画調書について、各専門委員が専門的見地から評価し、合議により助成対象活動の評定（選定）を行います。

各部会では、各専門委員会での審査結果をもとに、採択すべき助成活動及び助成金の額について審議を行い、この結果を審査委員会に報告します。

これを受けて審査委員会において審議を行い、採択する活動及び助成金額を決定します。



平成17年度　応募・採択状況

活動区分別応募・採択状況

（単位：千円）

活動区分	応募件数	採択件数	内定額
子どもの体験活動	1,812	1,690	1,419,241
子どもの読書活動	325	299	227,268
教材開発・普及活動	91	27	259,884
合計	2,228	2,016	1,906,393

子どもの体験活動都道府県別応募・採択状況

（単位：千円）

都道府県	応募件数	採択件数	内定額
北海道	106	100	75,796
青森県	12	11	6,220
岩手県	23	23	10,870
宮城県	20	15	21,248
秋田県	14	13	4,422
山形県	13	12	6,964
福島県	15	14	10,560
茨城県	36	36	36,697
栃木県	30	30	11,610
群馬県	24	15	8,041
埼玉県	37	35	21,499
千葉県	71	66	34,215
東京都	325	295	459,457
神奈川県	71	63	67,380
新潟県	20	18	13,290
富山県	11	11	9,557
石川県	16	15	8,465
福井県	43	41	55,257
山梨県	13	13	10,101
長野県	78	76	69,518
岐阜県	29	29	32,477
静岡県	50	49	28,212
愛知県	23	23	18,222
三重県	21	20	13,135

都道府県	応募件数	採択件数	内定額
滋賀県	39	37	19,410
京都府	58	56	32,795
大阪府	180	170	87,333
兵庫県	48	45	26,707
奈良県	19	18	9,020
和歌山県	15	13	12,422
鳥取県	8	7	1,565
島根県	7	6	6,852
岡山県	22	22	13,227
広島県	14	14	12,418
山口県	16	13	4,163
徳島県	30	28	17,707
香川県	14	11	6,247
愛媛県	11	9	4,561
高知県	9	9	5,530
福岡県	79	77	51,260
佐賀県	4	3	1,011
長崎県	11	11	6,311
熊本県	49	44	31,754
大分県	12	12	5,328
宮崎県	9	8	4,022
鹿児島県	45	42	16,314
沖縄県	12	12	10,071
合計	1,812	1,690	1,419,241

※応募団体の所在地である都道府県別に集計した件数・金額である。（以下、同じ）

子どもの読書活動都道府県別応募・採択状況

（単位：千円）

都道府県	応募件数	採択件数	内 定 額
北 海 道	15	12	8,123
青 森 県	0	0	0
岩 手 県	2	2	4,177
宮 城 県	2	2	3,832
秋 田 県	4	4	1,099
山 形 県	0	0	0
福 島 県	4	4	4,892
茨 城 県	4	4	1,147
栃 木 県	10	8	5,942
群 馬 県	0	0	0
埼 玉 県	5	4	1,302
千 葉 県	10	10	1,732
東 京 都	47	41	82,615
神奈川県	7	5	1,114
新 潟 県	6	6	1,975
富 山 県	1	1	407
石 川 県	5	5	3,606
福 井 県	4	4	1,364
山 梨 県	1	1	494
長 野 県	14	14	3,791
岐 阜 県	4	3	382
静 岡 県	8	7	2,470
愛 知 県	3	3	527
三 重 県	3	3	724

都道府県	応募件数	採択件数	内 定 額
滋 賀 県	15	15	9,042
京 都 府	16	15	3,757
大 阪 府	42	37	13,243
兵 庫 県	8	8	5,508
奈 良 県	1	1	1,854
和歌山県	1	1	278
鳥 取 県	4	4	4,376
島 根 県	9	9	3,169
岡 山 県	7	7	6,705
広 島 県	3	3	2,053
山 口 県	1	1	3,121
徳 島 県	7	6	2,318
香 川 県	6	6	5,981
愛 媛 県	1	1	390
高 知 県	1	1	405
福 岡 県	11	11	8,493
佐 賀 県	1	0	0
長 崎 県	5	3	1,500
熊 本 県	7	7	8,205
大 分 県	2	2	368
宮 崎 県	7	7	3,526
鹿児島県	9	9	7,378
沖 縄 県	2	2	3,883
合　　計	325	299	227,268

教材開発・普及活動都道府県別応募・採択状況

（単位：千円）

都道府県	応募件数	採択件数	内 定 額
北 海 道	2	0	0
宮 城 県	1	0	0
山 形 県	1	1	10,552
茨 城 県	1	0	0
栃 木 県	2	0	0
群 馬 県	1	1	9,988
埼 玉 県	2	1	5,000
東 京 都	33	15	152,939
神奈川県	4	0	0
新 潟 県	1	0	0
富 山 県	3	1	3,100
石 川 県	1	1	10,571
福 井 県	2	0	0
長 野 県	3	2	20,366
岐 阜 県	3	1	12,668

都道府県	応募件数	採択件数	内 定 額
静 岡 県	2	1	12,169
京 都 府	4	0	0
大 阪 府	7	0	0
兵 庫 県	2	0	0
奈 良 県	2	1	9,700
島 根 県	2	1	3,959
岡 山 県	3	0	0
広 島 県	1	0	0
山 口 県	1	0	0
愛 媛 県	1	0	0
高 知 県	1	1	8,872
福 岡 県	1	0	0
佐 賀 県	1	0	0
沖 縄 県	3	0	0
合　　計	91	27	259,884

平成13～16年度 応募・採択状況

平成13年度　（単位：千円）

	応募件数	採択件数	交付内定額
子どもの体験活動	1,724	1,469	971,607
子どもの読書活動	257	207	91,805
教材開発・普及活動	87	30	285,668
合　　計	2,068	1,706	1,349,080

平成14年度　（単位：千円）

	応募件数	採択件数	交付内定額
子どもの体験活動	1,813	1,590	1,141,906
子どもの読書活動	352	322	129,104
教材開発・普及活動	80	28	278,804
合　　計	2,245	1,940	1,549,814

平成15年度　（単位：千円）

	応募件数	採択件数	交付内定額
子どもの体験活動	1,910	1,723	1,275,061
子どもの読書活動	356	320	170,860
教材開発・普及活動	94	27	247,493
合　　計	2,360	2,070	1,693,414

平成16年度　（単位：千円）

	応募件数	採択件数	交付内定額
子どもの体験活動	1,837	1,611	1,319,642
子どもの読書活動	351	317	209,506
教材開発・普及活動	94	23	232,335
合　　計	2,282	1,951	1,761,483

休耕地を菜の花畑に大変身プロジェクト

実施団体名　菜の花トラストin横浜町
連絡先　〒039－4144　青森県上北郡横浜町字浜懸37
TEL:0175－78－2011　FAX:0175－78－2091
E-mail:nanohana-miya@h2.dion.ne.jp

活動の概要

年々増える町内の耕作放棄地や休耕地を子どもたちの手で、菜の花畑に蘇らせるプログラムです。作物ができる畑にするには何回もの作業が必要となり、昔の道具を使い、先人たちの知恵を学びながら活きた畑にする喜びを、美しい故郷に誇りを持って心を育てるプログラム。

ナタネ打ち作業①

活動の内容

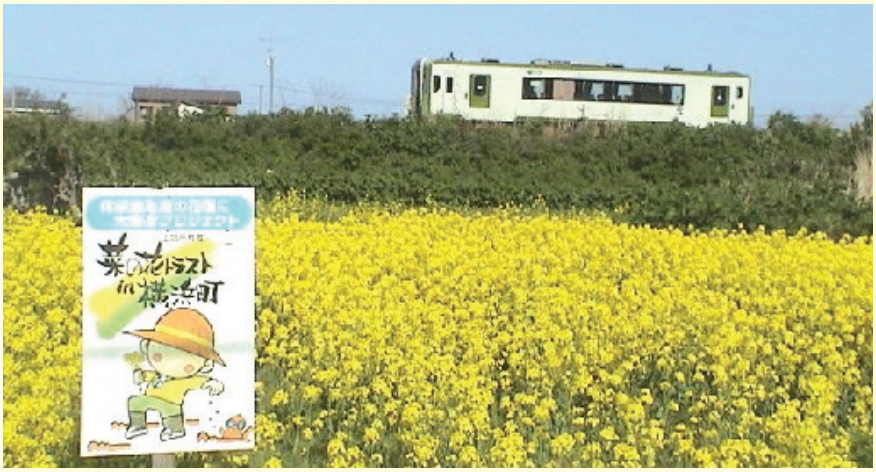
1回目（4月18日）：鎌にて草・萱刈り取り作業。休憩後、休耕地内の石拾いと草・萱刈り取り作業。
2回目（6月6日）：鎌にて草・萱刈り取り作業。休憩後、たち・もったを使い天地替え作業。（地面に、たちで切り込みを入れ、もったで草の根をひっくり返す作業）
3回目（6月27日）：たち・もったを使い天地替え作業。休憩後、鍬を使い耕作作業。（土を細かく砕く作業）
4回目（7月11日）：雨のため畑作業を取りやめ、トラスト役員が先生となり、菜の花について勉強会。
5回目（7月18日）：昨年作付したトラストの畑のナタネ刈り作業。鎌を使い刈り取る。（刈り取ったナタネの束は、乾燥させるためクロスに重ね並べる。）
6回目（7月25日）：ナタネ打ち作業。乾燥させたナタネを、大きなブルーシートの上に積上げる。子どもたちに、ナタネの上を飛び跳ねさせ、鞘が壊れ中からナタネをとる。鞘に残っているナタネは、最後は、棒で打ちナタネをとりだす。終われば、選別。まず、ナタネの枝付茎を取り除き、次に、ナタネを集め、鞘のかす等を取り除く。最後は、ナタネをとみかけし、袋に詰める。
7回目（8月1日）：鍬にて耕作作業。
8回目（9月5日）：ナタネ蒔き作業。ブルーシート上で、ナタネと肥料を混ぜる。（約ナタネ1対肥料20）混ぜ合わせたナタネ肥料をバケツに入れ、一列に整列し手蒔き作業。最後は、松の枝を棒に結び引っ張る覆土作業。

ナタネ打ち作業②

成果と課題

日本一の作付面積をもつ横浜町の菜の花の作付作業について知る子どもはとても少なく、このプログラムにより、汗を流した分の喜びと菜の花への愛着、また、地元の大人たちと力を合わせ作業することにより生れる尊敬の気持ちなどの成果がみられる。

課題は、学校行事などと重ならない日程調整の難しさと、地元の大人の協力が少ないこと、休耕地復活には思いのほか経費がかかりその確保が難しいことです。



蘇り見事に花が咲いたプロジェクトの畑
ＪＲ大湊線からも観賞できる

団体の概要

日本一の作付面積をもち、貴重な日本の歴史的農村風景である横浜町の菜の花を守り育てることを目的に、2002年3月発足。休耕地、荒廃農地などを菜の花畑に蘇らせるための支援を全国に呼びかけている。

絶滅復活チャレンジ古代米、養蚕おらほの文化体験

(※)おらほ　米沢の方言『私たちの地域』の意味

実施団体名　おぼこ健全育成会

連絡先　〒992－1123　山形県米沢市万世町桑山258
TEL:0238－28－4052　FAX:0238－28－4052
E-mail:xsbxc935@yahoo.co.jp

活動の概要

山形県米沢市は県内でもっとも早く米の文化が伝わった縄文遺跡があるが何故か古代米は伝承されていない。養蚕は米織のブランド名で織物の町として全国に知られた。かつて原料である繭はほとんどの農家が養蚕していた。繭が衰退し絶えてから35年になる。かつての伝統と生産する苦労、喜びを体験し、あらゆる方向から体験学習した。

活動の内容

古代米は黒米,赤米,緑米,紫米,丹仁穂米の五種類を育てる。

①5月22日開校式,終了後田植え体験 5時間
②7月3日昔の手作業による草取り 5時間
③8月22日稲の成長の観察と草取り 5時間
④10月3日昔の手作業による稲刈り 6時間
⑤10月17日手作業による脱穀5時間
⑥終了式11月14日収穫感謝祭と古代米と食文化について講義 6時間

田植え体験

蚕の飼育と草木染体験学習

(1)6月5日1cm以下の蚕の飼育体験 4時間
(2)6月13日蚕の餌桑の葉採集、餌やり体験 4時間
(3)6月20日蚕の餌桑の葉採集、餌やり体験 4時間
(4)6月27日糸を吐く巣の取り付け、観察と飼育 4時間
(5)7月4日草木染体験学習 6時間

餌やり体験

成果と課題

地域作りの原点

古代米作り、養蚕を通じて、生き物や植物を育てる難しさや農家の苦労、食の大切さを認識させ、農作業のみにとらわれず、自然環境や地域文化、歴史、過疎の問題まで多様な視点から考える事ができ、地域先人の知恵などすぐれた総合体験学習の地域の見直しが出来た。

地域と農家の協力

古代米の草取り、稲刈りなどは子どもが休みの土曜、日曜いずれか実施、雨の場合は一週間も延びてしまう事があった。田んぼ管理、蚕管理育成については限られた時間、日数の為、平日の作業などスタッフの関係者と農家の大きな協力など隠れた苦労もあった。地域の方々の協力なしでは、実践活動は難しいと思われる。

農薬の現状と公害、地域環境

養蚕については餌の桑の葉は田んぼ近くにたくさん桑の木はあるが、苗の消毒が行なわれており、周辺の桑の葉を食べると蚕が死滅するおそれがあり、消毒のおそれがない山や林などより消毒の液が付着してない桑の葉を探し出すのが大変で雨に濡れた葉は乾かしてから餌をあげる事もあった。この他、臨時に召集した事もあったが公害など環境問題までの話におよんだ。古代米作りは無農薬で行なわれた。

小学校、老人福祉施設にプレゼント

小学校全生徒と老人福祉施設に古代米を食べていただき学校、親、地域、福祉関係の方々からも大きな反響もあり、この体験を今後毎年継続し単発で終わらせない為、運営資金をどのように確保するかが大きな課題である。

『万世友ゆうジュニアリーダー』の発足

一連の体験した子どもたち全員が『万世友ゆうジュニアリーダー』の発足となりボランティアなど行なうこととなった。

稲刈り体験

団体の概要

米沢で特色のある絶滅した文化を子どもたちが再現し、米沢の歴史と文化を直接肌で感じる事は貴重な体験となり食文化や蚕の飼育などを経験し、地域に関心をもたせ地域文化、歴史など総合体験学習、かつての地域文化再現と地域作りの文化体験。
参加者小学生27名

障害児のふれあい合宿

実施団体名　特定非営利活動法人　わんぱくクラブ育成会
連絡先　〒154－0004　東京都世田谷区太子堂4－17－10
TEL:03－3411－6893　FAX:03－3411－6893
E-mail:wanpaku-club@npo-jp.net

活動の概要

「寝食を共にすることで仲間意識を深める」「自然の中での活動を通して豊かな心を育てる」をモットーに、2回にわたり宿泊活動を行う。食事や入浴などの生活面の他、みんなでゲーム等を楽しむと共に、丘陵地や海岸で散策をし、自然を満喫した。

活動の内容

★ふれあい合宿パート1

（こどもの国）

園内のテラスで昼食を取った後、牧場に行きひつじなどと触れ合う。その後、遊園地へ入りローラーコースターを楽しむ。

（横浜あゆみ荘）

夕食後、訓練室にておたのしみ会としてトランポリン大会やリレー、ダンスなどを楽しむ。入浴では、男の子は3グループに分かれて入る。ジャグジーが好評だった。

（ふれあいの丘公園）

宿泊先の近くの公園で散策をする。小川でザリガニを獲ったり、花を摘んだりする。

ひつじとのふれあい

「おたのしみ会」での出し物披露

★ふれあい合宿パート2

（バス内のレクリエーション）

バスレク係の進行で、のど自慢大会やクイズを楽しむ。

（蓮沼海浜公園）

昼食を取った後、園内を散策する。展望台にのぼり水平線をみんなで眺める。

（タイヨースポーツセンター）

体育館にておたのしみ会を行う。班ごとに出し物を披露したり、みんなで野球やハンカチ落とし、ものまね大会などに興ずる。

（千葉・白里海岸）

朝の海岸を散策する。波際を歩いたり、砂山をつくったり、すもうをしたりと各々が思い思いに楽しむ。

成果と課題

◎同年代の子どもたちやスタッフと長い時間を一緒に過ごす中で、普段では見られないような関わりがあった。家庭でも合宿の話をしていると保護者からの報告もあり、喜ばしい。

◎同室の子どもたちや同じ班の子どもたちと共に、着替えや食事、入浴、あるいは班のだしものなどを行う中で、子どもたちの自主性が育ってきていることを再確認した。

◎丘陵地帯での散策や小動物との触れ合い、海岸での遊びなどでは、都会で暮らす子どもたちにとって貴重な体験となったと思われる。普段殆ど接することの無い自然に対して、恐れをもちつつ楽しんで関わる力というものは、繰り返して体得していくものだと考えている。来年もまた同じ場所を利用して体験を重ねていきたい。

◎多動性の障害があったり、肢体に不自由があったりする子どもに対する食事や入浴の援助もさることながら、移動やあそびの場面においても、子どもの安全管理には十分気を配った。今後とも事故や怪我のないように取り組んでいきたい。

ローラーコースターを楽しむ

団体の概要

特定非営利活動法人わんぱくクラブ育成会は、障害児・者、その関係者の生活を豊かにするための活動をしています。2つの障害児の学童クラブ、障害を持つ青年のグループ活動、障害者と健常者が共に楽しむコンサートなども行っています。

ユニバーサルキャンプ指導者養成事業

実施団体名　特定非営利活動法人　国際自然大学校
連絡先　〒214－0001　東京都狛江市岩戸北4－17－11
TEL:03－3489－6320　FAX:03－3489－6921
E-mail:tokyo@nots.gr.jp　URL:http://www.nots.gr.jp

活動の概要

様々な障害を抱える子どもなどを含め、誰でも参加できるキャンプ（ユニバーサルキャンプ）を実施するためには、指導者のより広い視点やハードスキルが必要となる。そこで、本活動では特に知的障害を抱える子ども対象に、ダイナミックな自然体験活動を提供するための、指導者のスキルアップを目的とした実践的トレーニングを、障害を抱える子どもを対象としたキャンプの指導者を志す方を対象に行った。

活動の内容

（1）水上活動の安全管理

講義：水辺の安全管理について
実技：指導法について

「メディックファーストエイド（MFA）」トレーニングを基に、救命胴衣やレスキューロープなどの道具の理解から始まり、事故が起こった場合の対応の1つであるCPRなどのシミュレーション練習を取り入れ、室内にて講義と実技トレーニングを行った。また、水辺の安全管理に問わず、様々な活動の中で起こりうる事故への対応についても講義の中で行った。

（2）知的障害者の心理／水上活動の安全管理

講義：知的障害者に対する水辺での安全管理
実技：指導法について

知的障害者の活動を行う上でプログラム以上に必要である「知的障害者の理解」をテーマに、自閉症、ダウン症、知的障害、ADHDなど、様々な障害の特徴や対応について、身体障害者や知的障害者のカヌー体験、ラフティング体験など様々な余暇活動・自然体験活動を支援する専門家講師による講義を行った。また、障害者を対象とした野外活動の事例をもとに、活動に取り組みやすい環境作り、声掛けをすることで安心感を与えることが必要など様々な子どもたちの心理の講義を行った。更に、ボートの上からやレスキューロープを使用しての救急法の実技トレーニング及び指導法を室内にて行った。

（3）障害者対象のスキー指導トレーニング

講義：様々な障害の特徴
実技：障害者対象のスキー指導方法

知的障害者の活動を行う上でプログラム以上に必要である「知的障害者の理解」をテーマに、自閉症、ダウン症、知的障害、てんかんなど、様々な障害の特徴や対応についての講義と、障害者を対象としたスキー体験の事例を基に様々な子どもたちの心理について、身体障害者や知的障害者のスキー体験など様々な余暇活動・自然体験活動を支援する専門家による講義を行った。また実技では、スキー初心者から経験者の方が集まり、二人組を作り、障害者役と指導者役となり、スキー板のトップを押さえながら滑らせる方法やその時の参加者に対する声掛けなどを実践し、感じたことや疑問点などを出し合い指導力を高める活動を行う。「体操から実践」というプログラムの流れに沿いながら、補助道具となるトライスキーやフラフープ、ロープなどを利用した指導法も合わせて行った。

スキー指導

成果と課題

講義だけでなく、実技を組み込んだ研修を行うことにより、救急法やスキー指導を初めて体験する参加者にとっては、現場での実践につなげることができるととても良い印象を受けた。また、知的障害者と活動する上では、障害者の方が活動に取り組みやすい環境や安心感を与えるためにも、指導者側の経験やスキルが必要となる。今回のような実践トレーニングを行うことの重要性を改めて感じることができた。今後、様々な障害を抱える子どもなどを含め、誰でも参加できるキャンプを実施していくためにも、指導者がより広い視点を持つことのできる研修、現場での実践につながる研修を実施し、幅広く様々な方を対象としたキャンプ活動を実践していきたい。

団体の概要

国際自然大学校は東京都狛江市にある東京校［本部事務局併設］の他、山梨県北杜市にある日野春校、栃木県日光市にある日光霧降校、群馬県新治村にあるにいはる自然学校の3つの地方校があります。子どもから大人までを対象とした自然の中での体験活動や、「プロの指導者を目指す」「ボランティアで子どものキャンプに参加したい」「自然を舞台とした体験学習について学びたい」など様々な目的を持った人たちのための指導者養成事業なども行っています。

名人が伝授する、かんじき製作体験講座

実施団体名　NPO法人かみえちご山里ファン倶楽部
連絡先　TEL:025－541－2602　FAX:025－541－2602
E-mail:kamiechigo@nifty.com　URL:http://homepage3.nifty.com/kamiechigo/

活動の概要

過疎化から失われつつある里山の伝統文化や技術、森や棚田の荒廃などを知り、その重要性に気づくきっかけ作りを目的として、小学生3年生～6年生の子どもたちが、地元のおじいちゃんから昔ながらの「山かんじき」の作り方を教わった。

活動を通して、地域住民との交流や生きた里山に触れることができ、また宿泊や学年・世代を超えた交流により、現代の子どもたちに、より必要とされている自主性や協調性が育まれることを目指している。

活動の内容

【かんじきの型付け編（11月、12月）】

まずは森に入ってかんじきの材となる木を選び、切り出す作業から始まった。参加者は、材となる「アブラチャン」という木の良い香りを頼りに、秋の森を散策。

材を切る作業は、森の手入れになることも学んだ。2日目は、採取した材をたき火であぶって、かんじきの形に曲げるとても力のいる作業に、悪戦苦闘しながら挑戦した。

かんじきの材料を切り出す

かんじきの達人に教えてもらおう

【かんじきの組み立て編（1月、2月）】

秋に曲げておいた材をノコギリや小刀、ノミなど普段使ったことのない道具を使いながら、4時間もの時間をかけて、かんじきの組み立てに挑戦した。2日目は、自分で作った世界でひとつのかんじきを履いて、雪山を散策。棚田やブナ林の斜面を転がったり、ジャンプしたり、動物の足跡を追いかけたりと、みんな笑顔で雪を楽しんだ。

参加者からは、「かんじきの『こぼとけ（爪）』を作るのが一番難しかった！」「かんじきを履いたのは初めて。沈まないんだね！」「いろりの火たきが上手になったよ。」などたくさんの感想が飛び出し、全ての体験が楽しい思い出として心に残ったようだ。

成果と課題

かんじき作りや森散策を通して、子どもたちに里山の自然や文化・人々の知恵や技術を伝えることができた。また茅葺き古民家を活動拠点にすることにより、囲炉裏の火炊きや掃除、食事準備など、普段の生活とは違う環境の中で、子どもたちだけで協力し、活動することで、生活することへの実感を持ち、その環境を楽しむ姿が見られた。今後はこの活動を継続することにより、里山への興味をさらに深め、自ら環境問題について考え、行動を起こす子どもたちを育てることを目指したい。

かんじきを履いて雪合戦

団体の概要

新潟県上越市の西部中山間地を中心とした自然、文化、技術を「守る、深める、創造する」ことで豊かな地域文化を育む活動を行っている。また独自のネットワークを生かし、中山間地と首都圏を結ぶ活動も展開している。

海のお宝ハンティング2004

実施団体名　土肥温泉旅館協同組合
連絡先　〒410－3302　静岡県伊豆市土肥412－19
TEL:0558－98－0523　FAX:0558－98－0524
E-mail:seki@toi-onsen.com　URL:http://www.toi-onsen.com

活動の概要

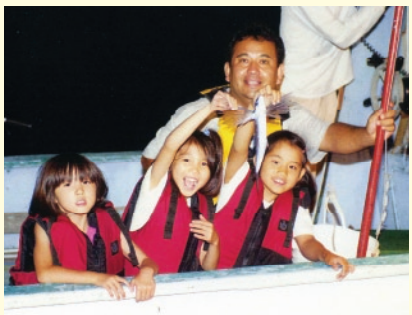
最近の自然と触れ合う機会の減少は、青少年の健全育成を妨げる一因ともなっている。「磯」は海岸のなかでも特に生物の多い場所であり、「磯遊び教室」は多くの生物に直に接して自然を理解し、子どもが夢を膨らませる絶好の機会であり、「とびうおすくい」は、闇の海の神秘さと美しさや魚の習性を体験でき、自然との触れ合いを通して、生命の尊厳を理解し、健全な青少年を育成することを目的として活動を行った。

活動の内容

磯遊び教室

西伊豆土肥には海水浴に適した砂浜だけでなく、磯遊びに適した磯も点在している。その磯をフィールドに海の生物の研究をしている東海大学海洋学部教授の指導で磯遊びを実施した。潮溜まりに住む生物との触れあい及び捕獲、干潮のみ渡れる小島に移動して生物との触れあい及び捕獲をした。ベースキャンプに戻り、環境についての説明及び教室での反省をした後、命の大切さを説明して、捕獲した生物を海に返した。

磯遊び教室　教授から指導を受ける



とびうおキャッチ成功!

磯遊び教室指導者養成

幼稚園年中から小学生の子どもを持つ保護者に磯での遊び方を指導した。現代の保護者は、磯を満足に歩くこともできないので、磯の歩き方から、親子での磯遊びの方法、安全管理を指導し、親子で容易に磯遊びができるようになる事を目的としたプログラムを実施した。また、レベルの高い保護者には、専門的な知識の講習も実施した。

とびうおすくい体験

参加者は、ライフジャケットを着用し、網を持ち、出船を待ちわびる。夜8時完全に日が落ちた海へ数隻の漁船に分乗して、沖合へ出航する。「集魚灯」と呼ばれる灯りを点灯すると、灯りの好きな魚たち（特にとびうお）は、灯りの周りを飛び跳ねる。この魚たちを観察しながら船に近づいてくるとびうおを網を使って捕獲した。捕獲できた時の子どもたちの笑顔と歓声は、忘れることができない。90分程、観察及び捕獲を楽しみ漁港へ帰港し、とびうおの特性やその他の魚の食べ方などを地元の方に指導を受け、随時解散した。

成果と課題

磯遊び教室及び指導者養成：参加者が目標の80％と低調であったが参加者の評価は高かった。今年は、暑い日が多く、保護者の疲れが目立ち、講師及び団体構成員は、子どもたちの安全管理に苦慮した。指導者養成講習を6月に実施したので、参加した保護者のいる家族は、スムーズにプログラムをこなす事ができた。また、前年に比べ講師を2名増やした事により、子どもたちにより細かな説明ができ、小学生には、生命の尊厳を理解させることができたと自負する。幼稚園の子どもたちは、磯の勉強はできなかったと思われるが、磯で遊ぶ事の楽しさは、十分伝えられた。子ども用の軍手を3サイズ用意した事は、安全面から考えて保護者から評価された。暑さ対策が今後の課題となる。

とびうおすくい体験：荒天による延期が3回あり、参加者に迷惑をかけた。前年の課題から9月に3活動実施し、とびうおがたくさん捕れ好評を得た。何も捕れない家族への対応のため、ボランティアの漁師が漁船に便乗し、とびうおを捕獲して子どもたちに分けることで大変喜ばれた。急な波や風による中止の対応は、次年度へ課題を残した。

団体の概要

旅館の経営者で昭和52年3月設立。子どもたちに海での体験を通じて自然との親しみを感じてもらうため、平成8年より子どもたちの自然体験活動を実施。現在は、とびうおすくい体験、磯遊び教室、ひもの作り教室、海藻おしば教室、地引網体験、砂の造形大会などの自然体験を積極的に実施している。

こども農業体験（無農薬、露地での野菜作り、もち米作り）

実施団体名　こども体験農園すくすく
連絡先　〒511－1127　三重県桑名市長島町殿名1002
TEL:0594－42－1251

活動の概要

食の安全性が云われている昨今（産地偽装問題）、当農園では季節感を感じるよう露地で野菜を19品目（トウモロコシ、すいか、大豆、もち米等）を無農薬で栽培し育て、収穫時には全員で食べ、露地で栽培された無農薬野菜（少々形が悪く、虫が食べたあとがあるようなもの）がいかに美味しいか、味覚・食感で覚えることができ、さらには地域のお年寄りの方との交流の場となっている。

つきあがったもちを食べる

活動の内容

本年度も様々な野菜の栽培・収穫を行ったが、特に、収穫した大豆を使用する「味噌作り教室」が好評で、朝食離れしている若い世代に美味しい味噌汁で朝食を取る食習慣を推進できればと考える。

また、収穫したもち米を使用して「餅つき大会」を行い、子どもたちにも餅つきを体験させ、つき上げたもちは大根おろしやきな粉、あるいは「なばなもち」にして食べた。地域のお年寄り（協力者）のご好意で、郷土料理「ボラメシ」の雑炊を作っていただき、昔の話を聞くなどして楽しく過ごした。

大根の収穫

成果と課題

若い世代のお母様方が、食育について非常に高い関心をお持ちのようで、昨年度よりも多くの参加者が集まった。それと共に参加者が多人数となると、活動の指導が十分に行き届かないことも考えられる。来年度は参加者を3班に編成し、各班に農業経験者及び地域のお年寄り（協力者）を配置する考えである。また、5・6年生の内から各班2名ずつ班長を指名し、リーダーとして育成し連帯感の強化と地域社会の一員となり得るよう育成指導をしていきたい。

団体の概要

こども体験農園すくすくは、平成14年3月に地域のお年寄り（農業経験者）有志のご協力を得て立ち上げ、子どもたち及びその父母に体験農園を通じて生きる為に欠かせない野菜（無農薬）の重要性と、地域の生産者やお年寄り（協力者）との交流を深める目的で一年間通じて毎月第二土曜日を活動日とし、それ以外に野菜の収穫期に合わせて収穫祭を催している。

七塚原自然探検隊

実施団体名　特定非営利活動法人　七塚原自然体験活動研究センター
連絡先　〒729－0023　広島県庄原市七塚町580　高原の家七塚
TEL:0824－75－2033　FAX:0824－75－2033

活動の概要

七塚原高原の四季を通じて、自然を探検することにより、自然とのふれあい、自然のしくみを知り、自然を愛する気持ちを育む。また、集団宿泊をする中で、異年齢、他校生との交流をすることにより、自主性や協調性を育む。

活動の内容

高原の家七塚（元県立青年の家）の施設は、すばらしい大自然の中にあり、周辺は野山、川、田んぼ、畑、牧場、果樹園などがあり、自然体験活動に適したフィールドが有り、身近な自然を探検するのに適している。

四季それぞれの自然体験を進めるため、年四回、春、夏、秋、冬と「自然探検隊」の事業を計画し進めた。

それぞれ、1泊2日間のプログラムをつくり実施したが、春のプログラムは施設開所の手続等が遅れて実施できませんでしたが、夏のプログラムに組み入れられるものは入れて実施した。

川辺の生物の観察、植物標本づくり、農業体験はりんごの木の手入れを実施した。里山で拾った材料でクラフトづくりも行った。

バードウォッチング

秋の収穫

秋の会は、登山ときのこ狩りを体験した。日本ピラミッドと呼ばれている標高815mの葦嶽山（国有林で、どの方向から見ても三角形に見え、昔神武天皇が東征のとき立ち寄られたという伝説があり、神武天皇陵とも言われている山）。この山林は、いろいろな「きのこ」が有り、有害、無害の判別や観察を指導してもらった。「まつたけ」等も多く収穫し、夜の食事の料理にしてもらった。

農業体験は「さつま芋掘」や「そばの収穫」を実施した。

冬の会はバードウォッチングを実施し、施設周辺だけで16種類の小鳥の観察が出来た。更に秋に収穫した「そば」で「そば打ち」体験をしてみんなで食べた。

成果と課題

自然の中での活動の素晴らしさを学び、自然の大切さを知り、自然環境への意義が養われたと思う。

広い範囲から集まった子どもたちは、異年齢、他校生との交流が深められ次回もまた会おうといった声がとても良かった。

今後は、活動フィールドの調査と新しい内容の取り組みが必要である。

そば打ち体験

団体の概要

2004年2月に、特定非営利活動法人として設立し、閉所となった元県立青年の家の施設を活用して、青少年の自然体験活動を推進し、青少年の健全育成につとめている。自然探検隊の他、キャンプ教室、きのこ園づくり、里山づくり、土曜日子ども遊び教室等のプログラムを実施している。

Camping for all 2004

・障害者キャンプ・キャンプカウンセラー養成セミナー　・うずしおキャンプ

実施団体名　CK／OC（しーけー／おーしー）
連絡先　〒770－0943　徳島県徳島市中昭和町1丁目9
E-mail:dec20phtmio@yahoo.co.jp
URL:http://blog.livedoor.jp/ck_oc　http://8810.teacup.com/ck_oc/bbs

活動の概要

キャンプという自然体験活動をきっかけに、CK／OCが活動目的とする“4つのR”（レクリエーション、レスパイトケア、リ・オリエンテーション、リハビリテーション）の実践を通して、「今を楽しむこと、生きることを楽しむこと」の場の提供を目的に、ダウン症や四肢麻痺等、障害の種類や程度を問わず、心身に障害を持つ子ども（小5～高3）に対して『うずしおキャンプ』を開催し、社会福祉や教育などに意欲の高いボランティアに対しては、このキャンプの事前研修会として『障害者キャンプ・キャンプカウンセラー養成セミナー』を行った。

活動の内容

○『障害者キャンプ・キャンプカウンセラー養成セミナー』

（1泊2日）

“4つのR”のうち、レクリエーションとリ・オリエンテーションに重点を置き、障害を持つ子どもたちとの自然体験活動に必要なことを学ぶ場として、大学教授等有識者の講義などを受けながら、種々のリスク管理や、自分が「楽しい！」と思う自然体験プログラムの作成等を行った。

○『うずしおキャンプ』

（プレキャンプとして1日、本キャンプとして2泊3日）

レクリエーションとレスパイトケア、そしてリハビリテーションに重点を置いたプログラムを構成し、指導者（ボランティアスタッフ）と1対1になって、海や松林でゆったり豊かな時間を楽しんだ。また、保護者を対象に、子どもに体験させたいプログラム等を事前アンケートとして行っており、これを参考に、『セミナー』参加者が中心となって構成されたスタッフが、海水浴やキャンプファイヤー、野外炊飯等のプログラムを準備した。

※レクリエーション（Recreation）
「楽しい！」を体験するプログラム
※レスパイトケア（Respite care）
介護や日常の繰り返しから解き放たれる、家族みんなの夏休み
こころとからだのリフレッシュ
※リ・オリエンテーション（Re-orientation）
多種多様な職種やアイディアを持つ仲間が集まることによる相互学習
※リハビリテーション（Rehabilitation）
「自律」を目指す療育

松林で拾ったものを貼り付けて凧づくりをする様子

成果と課題

集団生活での「非日常」によって、子どもたちのみならずスタッフもまた、広く社会を知ることや、自分自身を考えるきっかけとなった。特に、対人関係を築くことの面白さや重要性を知るに従って、子どもたちの表情が明るくなり、穏やかにもなる様子が見られ、事後アンケートでも、自然体験活動を通しての子どもたちの成長をたくましく感じることが、保護者からの声として聞かれた。今後も活動を続けるにあたり、活動PRと資金の確保が重要な課題である。

みんなでテントをる様子

団体の概要

障害を持つ子どもたちの自然体験活動の推進を目的として、平成15年に設立。夏季を中心に活動を展開し、国籍や年齢、そして障害や疾病の有無に関わらず、キャンプを通してさまざまな変化やきっかけを得られるよう、「Camping for all」を目指す。

2004年上峰町青少年育成キャンプ

実施団体名　上峰町青少年育成町民会議
連絡先　〒849－0123　佐賀県三養基郡上峰町大字坊所319番地4
TEL:0952－52－3833　FAX:0952－52－3888
E-mail:ninomiya-tetsuji@town.kamimine.lg.jp

活動の概要

阿蘇くじゅう国立公園内の九重連山の麓にある大分県九重少年自然の家キャンプ場。普段あじわうことのできない自然に親しみながら活動しました。みんなで力をあわせることの「大切さ」や自分から進んでやることで「勇気、自信」がついてきます。そんな宝物をこのキャンプで探すことを目指しました。

炊飯活動火を起こす

キャンプ場にて炊飯指導

活動の内容

3泊4日　自然体験活動（平成16年8月6日～8月9日）

第1日目　大分県九重少年自然の家キャンプ場

キャンプ場にて入村式を行い、炊飯指導の後、9グループに分かれ炊飯活動を実施。夜間はプラネタリウムにて1日の空の動きや1年間の星空の変化を観察、天体の動きを学習した。

第2日目　九重連山・三俣山登山

朝食後、9グループを3班編成し、各班に指導者を配置、三俣山の登山に出発。参加者全員が頂上に到着、昼食をとった後下山し、野外炊飯の活動を実施し、夕食後は、各班キャンプファイヤーの出し物等を話合った。

第3日目　大分県九重少年自然の家キャンプ場

起床後、野外炊飯により朝食をとった後、9グループを2班編成し、1班はグランドにおいてドッヂボール等の球技、1班は室内においてプラホビー（プラスチック板のペンダント制作）等の創作活動を実施。夜間には、キャンプファイヤーを実施し、厳粛な儀式と各班の出し物等により、連帯感や協調性を養った。

第4日目　大分県九重少年自然の家キャンプ場

起床後、最後の野外炊飯により朝食をとった後、参加者の感想文を作成し、帰省した。

成果と課題

野外炊飯等の集団活動を通し、社会性や自主性を養い、創作活動の中での創意工夫を深めることで、次への意欲が高まった。また、登山等を通して自然の美しさや厳しさに触れながら、苦労を乗り越えた後の達成感や難しいことも簡単に諦めないで仲間と協力することの大切さを感じ取ることができた。

課題としては、キャンプの実施について、他の行事の日程等と調整し、より多く子どもたちを受け入れられる体制をとり、また、冒険的活動や創作的活動、子どもたちの様子などの状況の変化に応じるため、スタッフの確保を図りたい。

団体の概要

広く町民の総意を結集し、青少年の健全な育成を図る。子どもに関する諸団体に対して、連絡、支援等の事業を行い、主に、野外活動体験や青少年の健全育成を図るための地域組織活動を推進している。

体験活動プログラム「環境と水」

実施団体名　岩手大学「環境と水」研究者グループ
連絡先　〒020－8550　岩手県盛岡市上田3丁目　岩手大学農学部内
TEL:019－621－6205　FAX:019－621－6107

活動の概要

環境と密接に関係している身近な河川、池、水田や排水溝などの水に注目して場所による汚染の違いを実験で調べる。これらの結果を基に、今後どのようにすれば良質な水の恩恵を受けられるか、また水の確保が発展途上国、先進国を問わず深刻になっている現状を、21世紀の地球規模での環境問題として一緒に考える。

活動の内容

河川水の微生物学的検査

各自持参した水を寒天培地に塗沫して一晩培養後、培地に発育した大腸菌等の菌数を計算した。発育した菌をスライドグラスにとり染色後、顕微鏡で菌数の多さ、形の違いを観察した。

生活排水の富栄養化

富栄養化の原因物質には硝酸とリンがある。持参した水中の亜硝酸、リン酸について携帯型分光光度計を用いて検査した。

堆肥の温度と水

有機リサイクル農法に必要な堆肥について実際に手に触れ臭いや発酵温度を体験するとともに温度、水分、

酸素濃度を計測器で測定した。

生活排水の化学検査

持参した水の中の水質汚濁の原因物質としての有機物質量を知るため、ビューレットから過マンガン酸カリ溶液を滴下して酸素要求量（COD）を算定した。

顕微鏡による水中微小生物の観察

大学構内の池で各自採取した水中プランクトンを顕微鏡下で観察し、先生から動物、植物プランクトンの違い、存在意義、名前を教わった。

各種洗剤のミジンコとメダカへの影響

市販の各種液体洗剤をビーカーの中のミジンコ、メダカに最終濃度を100、1000、1万、10万倍希釈して加え、30分毎に生死を観察して、どのような洗剤がもっとも害を与えたかを実験した。

講演

環境を守る仕事

環境悪化をどのようにすれば防ぐことが出来るのか？環境保全はどのように行われているのか？など種々の問題解決について学んだ。

発展途上国の環境問題

発展途上国で現在進行している森林破壊、水問題、環境悪化について説明を受けた。これらの国々では日本にはない水問題による不衛生、貧困、水運びなどに子どもたちが直接関係していることも学んだ。

昼食後、岩手大学ミュージアム、農業教育資料館、獣医学科標本室等を見学した。

成果と課題

化学、生物実験を行い、家庭から出る米とぎ汁がCOD測定で高い値が出ることや、持参したシャンプーでの実験等をを体験し、日頃使用している洗剤が環境に悪い影響を与えていることを子どもたちが理解した。講演では発展途上国の水不足や水汚染が大問題化していることを学んだ。保護者も実験に加わり親子で水の大切さを再認識した。他校生とのグループ編成により全員が一丸となって共通の問題意識を共有できた。一番の問題は参加者募集であった。各学校に募集要項を送付したにもかかわらず、参加した子どもたちの半数が学校ではなく地域の環境活動、理科クラブから聞いての参加であった。参加者のアンケートでは身近なところから環境を守る活動を始めたい、来年も参加したいという希望があった。

団体の概要

岩手大学各学部内研究者有志が集まり、21世紀最初の年（2001年）に、環境と密接に関係している水について各教員が専門分野を担当し、中学生、高校生ら子供たちと一緒に実験や講演を通して環境保全の大切さを考える体験学習計画を立てた。世界の環境問題に詳しい専門家にも講師として参加依頼してきた。

君が天文学者になる4日間

実施団体名　「君が天文学者になる4日間」実行委員会
連絡先　〒181－8588　東京都三鷹市大沢2-21-1 国立天文台天文情報公開センター内
TEL:0422－34－3644　FAX:0422－34－3810
URL:http://www.nao.ac.jp/kimiten/

活動の概要

天文学者って日頃どんなことをしているのだろう？興味はあるけれど具体的なイメージがわかない。そんな自然科学に興味のある高校生のために、ただ「星を見る」だけではない天文学者の日常を3泊4日の研究生活を通して体験してもらう活動である。研究テーマ決め、観測計画、観測、データ解析、考察、研究発表までの一連の研究活動を、『高校生が主体となって行う』ことが特色である。

活動の内容

高校生4人を1班（全部で4班）とし、各班に3名ずつの大学院生を配置、その他、夜間の観測指導等に数名の学生を配置して、次の活動を行った。

(1)研究テーマ決め

各班が興味のある内容且つ国立天文台三鷹キャンパスで実施可能なことを考慮して、テーマを決める。高校生自身に決めてもらうのは、答えの分かっているテーマではなく、結果が未知な内容を研究テーマとし、研究の醍醐味

観測の様子

議論風景

を味わってもらうことに重点をおいているからである。今回のテーマは、「超新星残骸（かに星雲）のガスの運動を調べる」「超新星2004djの最期について考察する」「近接連星V523　Casの現状と将来を考察する」「彗星C/2001Q4の寿命を推測する」であった。

(2)観測計画＆観測

1・2日目の夜を観測の時間にあてた。望遠鏡1台を4班が使うため、1晩で観測できる時間は各班約2時間×2晩しかない。効率良く研究に使えるデータを得るために、ここでは観測経験のある大学院生がアドバイスをする。天候が悪く観測ができなかった班は、過去の観測データや、一般公開されている世界各国の望遠鏡のデータを使用した。

(3)データ解析＆考察

2・3日目に観測データの解析を行った。画像解析ソフト「マカリ」を使うと、パソコン上で高校生も簡単に1次処理や測光ができて便利である。本来は、出た結果について考察を行うことが重要だが、結果を出すのに精一杯で、あまり深く考察できない班も多かった。

(4)研究発表会

3日目に国立天文台の研究者も招いて発表会を行った。発表会の様子は、インターネット中継も行い、保護者や一般の方にも見てもらった。研究者の方々からは、解析の進め方や考察が甘いなどの厳しいご意見をいただいた一方で、研究に関する貴重なアドバイスももらい、高校生にとってはいい刺激となった。

成果と課題

4日目に高校生に聞いた満足度は、半分がまだまだ不満という意外な結果であった。これは、もっとやりたいという高校生が多かったということを意味している。実際、1つの班は継続して観測と研究をし、半年後に行われた天文学会のジュニアセッションでも成果を発表した。また約8割以上が天文学へのイメージが変わったという感想を持っており、「星空を見る方が多いと思っていたが、コンピュータで解析をしたりするほうが多かった」、「天文学はかたいイメージで手に取りにくいものだったけれど、こんなに身近なものなんだ！と実感した」などの回答があった。

今後は、電波や理論など幅広いテーマに対応できるように工夫していきたい。

団体の概要

主には、夏に行われる「君が天文学者になる4日間」を企画し、それに向けた活動を行っている。その他、体験した高校生が継続して行う研究活動や観測の支援も随時行い、高校生の自発的な活動をサポートしている。

サイエンスキャンプ2004

実施団体名　財団法人 日本科学技術振興財団
連絡先　〒102－0091　東京都千代田区北の丸公園2番1号
TEL:03－3212－2454　FAX:03－3212－0014
E-mail:camp@jsf.or.jp　URL:http://ppd.jsf.or.jp/camp/

活動の概要

高度化・複雑化し、わかりづらいものとなっていく科学技術の“今”と次の世代を担う若者のかい離を埋めるべく、サイエンスキャンプは、ライフサイエンス分野、情報通信分野、環境分野、ナノテクノロジー・材料分野、宇宙・海洋などのフロンティア分野、エネルギー分野など先進的なテーマに取り組んでいる公的研究機関を会場に、高校生を対象として夏休みの科学技術体験合宿プログラムとして実施した。

先進的な研究施設や実験装置が活用されている研究現場等で、第一線で活躍する研究者、技術者等から直接講義や実習を受けることにより、科学技術に対する関心と創造性、知的好奇心・探究心を一層高める機会を提供した。

活動の内容

公的研究機関28会場が、平成16年7、8月に高等学校、中等教育学校後期課程、高等専門学校（1～3年）等に在籍する生徒をそれぞれ6～30名（全体で352名）、3日間または4日間受け入れ、会場独自の特徴を生かしたプログラムを実施した。

また、実施に際しては、現職の高校教員にプログラム企画段階から加わっていただき、学校でまだ教わっていないことや、学術用語、専門用語などがあった場合に高校生等への説明やプログラムの監修等のフォローアップしていただいた。

会場：気象研究所、情報通信研究機構〔小金井本部〕、国立科学博物館、物質・材料研究機構、防災科学技術研究所、放射線医学総合研究学研究所、宇宙航空研究開発機構〔筑波宇宙センター、航空宇宙技術研究センター、角田宇宙推進技術センター〕、海洋研究開発機構、農業・生物系特定産業技術研究機構〔中央農業総合研究センター北陸研究センター、果樹研究所、花き研究所、畜産草地研究所、動物衛生研究所〕、農業生物資源研究所、農業環境技術研究所、農業工学研究所、森林総合研究所、産業技術総合研究所〔つくばセンター、北海道センター、地質調査総合センター、中部センター〕、港湾空港技術研究所、国立環境研究所地球環境研究センター、日本原子力研究所、核燃料サイクル開発機構

成果と課題

「進路選択に役に立った」「将来の目的が見えてきた」など参加後の参加者アンケートで答えている人が多かった。漠然とした志望をより具体的な目標へと決定づけなければならない高校生らにとって、一つの大きな人生の指針となったと思われる。参加者の9割が参加後、理工系への志望を持つと答えているので、わが国の理工系人材確保の一助としても一定の効果があったと考えられる。

宇宙航空研究開発機構－筑波宇宙センター施設見学

また、先進的な科学技術に触れる一方で、「全国から同じ目的を持った仲間との出会い」や「研究者に触発された」など人同士のつながりにより、良い影響を受けたという感想が多かったことも大きな成果の一つである。

課題としては、先進的な技術を学ぶために難しい内容になりがちな部分を、質を落とさずにいかに参加者へ提供できるかがあげられる。事務局の想定している難易度の「丁度よい～やや難しい」の幅で8割の参加者が評価しているので、今回については概ね適正に行えたと思われる。3日間で高度な内容を完全に理解することは実質不可能なので、研究や技術の概要や、プログラムのエッセンス、研究開発現場で“今”何が行われているのかなどの雰囲気がうまく伝わるように心がけていきたい。

団体の概要

科学技術の普及啓発活動として科学技術系人材育成のための、実験や物づくりを主体とする科学技術体験型イベント、ワークショップの開催、科学技術ボランティアの支援や理科教育全般に関する調査研究をはじめ科学技術館の運営、教育文化施設や博覧会等のプロデュース、情報技術を活用した情報化推進などの活動を行っている。

子ども創作工房 ～めざせ！ジュニアものづくりマイスター～

実施団体名　福井大学メカエンジニアーズ
連絡先　〒910－8507　福井県福井市文京3-9-1　福井大学工学部機械工学科内
TEL:0776－27－8925　FAX:0776－27－8748
E-mail:honda@mech.fukui-u.ac.jp

活動の概要

子どもの理科嫌い・理科離れを防ぐために、福井大学工学部機械工学科の教職員有志が行っている「機械工学大好き講座」の一つとして行った。小学生を対象として、日常生活では触れることの無い大型の工作機械を実際に操作して「ものづくり」を体験し、理科や科学技術に対する興味を引き起こすことを目的とした。活動は2日間にわたって行われ、1日目は主に工作機械の使い方をマスターするための講義と体験、2日目は素材から加工を行い、製作課題である「スターリングエンジンカー」を完成させた。

スターリングエンジンカーもうすぐ完成！

活動の内容

(1)ミニ講義と機械工作体験

約1時間にわたり、講座全般の説明とミニ講義「ものを生み出す機械」を行った。ミニ講義では、ものができるまでの手順を説明した後、機械工作の様子をパワーポイントにより解説した。その後、大学の機械実習工場にある色々な工作機械を用いて、金属板を切ったり、曲げたり、削ったり、穴をあけたりして、機械工作を体験し、その使い方を大まかにマスターした。もちろん、参加者の小学生が単独でこのような大型の工作機械を操作することはきわめて危険であるため、操作する際に小学生の手に技術職員や大学院生が手を添えて行った。それでも、硬い金属を鉛筆のように削ることができたり、火花を散らして切断できると、大変興味深そうに手にとって確かめていた。

(2)スターリングエンジンカーの製作とデモ走行

まず、設計図に従って寸法を測定してマーキングを行い、金属材料を切ったり、それに穴を開けたりする作業を行った。できあがっている部品を組み立てるのと違い、その部品自体を正確に作っていくことは、小学生にとって少し難しく根気のいる作業だったが、全員最後まで一生懸命取り組んでいた。完成に近づくにつれて会話も少なくなり、集中している様子が伺えた。

完成したスターリングエンジンカーのシリンダー部をバーナーで暖めるだけで車輪が回り出した瞬間、大きな歓声があがった。バーナーを止めても数十秒間回り続け、数メートル走ったものもあった。

成果と課題

自分の手を動かして、時間をかけて難易度の高い製作に挑戦し、ものづくりの喜び、粘り強さ、達成感を味わってもらうことができ、概ね目的を達成できたと考えている。また、作業中の安全確保に向けて、本助成によりサポート役の大学院生をマンツーマンで十分に配置できたため、安全に活動を進めることができた。

このような活動をきっかけに地域と大学の交流も活発になるものと期待している。今後、さらに活動を継続して、「ものづくりの楽しさ」を伝えていきたいと考えている。

団体の概要

本団体は機械工学科の教員と技術部技官の有志により構成されており、機械工学の面白さを社会（特に子ども）に伝えることを目的として設立された。小中学生を対象とした「機械工学大好き講座」の他、日常一番子どもと接する機会の多いお母さんに科学技術のおもしろさを知ってもらう「賢い主婦への出発講座」も行っている。

子どもの科学ゆめ教室

実施団体名　日本物理教育学会近畿支部
連　絡　先　〒560－0043　大阪府豊中市待兼山町1-1 大阪大学大学院理学研究科物理学専攻内
TEL:06－6850－5727　FAX:06－6850－5379

活動の概要

工夫された実験や工作を子どもたちに体験してもらい、自然の不思議さや科学の楽しさを感じてもらうことで、理科を学ぶ意欲を高めることを目的としている。また、中学生・高校生には日頃の研究成果を多くの人に発表することで達成感や充実感を感じてもらい、より一層探究心を高めて欲しいと考えている。さらには、この体験活動を通して親子の対話を促進することもねらいとしている。

活動の内容

大阪駅前のハービスHALLで、51件の実験・工作ブース、7件のステージ実験講演、18件の工作教室を行った。テーマの例は次のようなものである。

・実験・工作ブース
プラスチックデイリーアート＆トイ／アメンボを作ろう／水中の小さな生物の世界／雪結晶の成長／空気のない世界を観察しよう／アルキメデスのらせんポンプ／科学信号機

・ステージ実験講演
ファラデーのかご／エジソンに挑戦！／ろうマジシャンと手話で話そう！／車いすの体験から考えるバリアフリーの街づくり／釜鳴りにチャレンジ

・工作教室
ストローのフラダンス／すすめ！しょうのう船／風船ホバークラフトを作ろう／竹墨で笛を作ろう／青いけどレッド（LED）／折り紙で恐竜の世界をつくろう／とばしてみよう！紙ひこうき

「科学の基礎を訪ねる」の様子

会場（大ホール）の全景

この活動に繰り返し参加している子どもも多く、同じ内容では飽きられることから、毎年、一定数を新しい内容に入れ替えている。

また、会場近くにある大阪市立科学館の協力を得て、科学館の展示物を高校生や大学生が事前に学習し、来場者にわかりやすく解説する企画（「科学の基礎を訪ねる」）を行った。

会場には1日で約1.5万人が来場し、かなり混雑することから、会場内に場内整理係を配置し、突発的な事故の防止にあたった。

成果と課題

多くの子どもたちが科学に対する興味と理解を増しただけでなく、出展者の多数である学校教員にとって、教材開発・資質向上の機会となった。

会場には手話通訳を準備するなどバリアフリー化に務めたが、様々なハンディキャップを持った子どもたちにも科学の素晴らしさを伝えられるよう、より一層努力したい。

また、今後は、出展経験のある方に対して新しい出展内容の研究・開発を奨励するとともに、中学生・高校生の研究発表の機会という側面をより一層発展させ、出展することをクラブの活動目的にしてもらうよう働きかけたい。

さらに、大阪市立科学館との連携を深め、日常的に児童・生徒が興味を持って、主体的に理科を学ぶことができる機会や環境を創出したいと考えている。

団体の概要

近畿6府県の大学、高校、中学校の教員を中心に組織された、物理教育に関する研究および実践活動を行っている学術団体である。近畿6府県での「青少年のための科学の祭典」を主催する他、高大連携による物理教育のあり方や、理科教育全般にわたる教育課程について研究・開発を行っている。

第5回こどものためのジオ・カーニバル

実施団体名　21世紀の地学教育を考える大阪フォーラム　こどものためのジオ・カーニバル企画委員会
連絡先　〒578－0944　大阪府東大阪市若江西新町3－1－8　樟蔭東高校
TEL:06－6723－5511　FAX:06－6732－1209
URL:http://geolo.sci.osaka-cu.ac.jp/geo/

活動の概要

2004年11月、大阪市立科学館にて地球科学や環境、防災に関する内容について、1時間程度の講義や実習を含む4つのセミナーと工作や作業などを中心とした11のブース出展を行った。いずれも体験的な活動を主としている。

活動の内容

セミナーは同館の工作室で30名程度(主に子ども)を対象とした講義、実習形式の取り組みで、ブース出展は研修室を用い、各ブース横2m程度の広さで実習や作業、展示を主とした取り組みである。子どもを主体とするため「内容の充実」と「よりわかりやすく」を基本理念とした。

セミナーでは日常あまり意識しない大気圧の不思議を安価で手に入る用具で実験したり、手作り望遠鏡の制作や岩石薄片を用いた万華鏡などユニークなものがあった。それらは子どもたちが説明を受けながら興味を持って学ぶことができる取り組みであった。ブース出展では分光器作りと光の不思議体験、蛍光ペンやビーズでの星座描き、化石のレプリカ作りと着色、実物の化石や鉱物にも触れ、切り紙での雪の結晶作り、キラキラ輝く小さな氷晶形成過程や空中に浮く水滴の姿の観察、さらに液状化モデル実験による地下構造の変化と被害、海洋漂着物の展示による環境破壊の実態や要因を学ぶことができた。

化石のレプリカ作りと着色

手作り分光器による観察

成果と課題

第2回から大阪市立科学館に会場を移し、第5回では3000名に達する来場者で、会場が手狭に感じられるくらいであった。第4回からゆめ基金の助成を受け、活動が定着してきたことで、開催時期が近づけば出展内容や開催時間などをHPで検索したり科学館に問い合わせするなどリピーターを含めた拡がりがみられるようになった。

身近ではあるがわかりにくい天文や気象現象をできるだけ忠実にわかりやすく再現したり、工作をしたり化石や鉱物に直接触れる体験を通し、特に地学領域への興味・関心を持ってもらえたと考えている。また環境や防災、省エネなどは積極的に取り上げることで、地球に住む我々にとってこれらが不可欠な領域で、地球科学との関連の深さと地球規模での取り組みへの必要性も感じてもらえたはずである。またこれらの取り組みを通して、地球や宇宙の不思議さ、面白さに接する機会が少なくなっている子どもたちの主体的な参加と、「いかに見るか」「いかに考えるか」などの科学する姿勢を醸成すること、さらに様々な体験を通して地球科学の大切さを感じてもらうことが出来た。また子どものみならず子どもの真剣な目の輝きを通して大人にも、21世紀においては地球科学とその普及活動が、身近で面白く、かつ極めて大切なものであることを理解されたものと考える。

出展をHPなどで募集したところ、大阪近郊だけではなく全国からの応募があり、大阪発信の活動に対しての関心と期待の大きさを感じた。今後はこうしたことを糧としてより大きな活動にしていきたいと思う。

液状化実験

団体の概要

理科離れが進むなか防災や環境を含む地球科学の学習が少なくなっている。その現状に対して天文や気象、地質及び環境・防災等に関する様々な実験や実習、工作などを通して将来を担う子どもたちに、身近にある自然現象や科学事象を体験的に学んでもらい、科学する目や姿勢を培う活動を学校関係者が中心となって行っている。

DREAM21　夢の課外授業

実施団体名　二十一世紀倶楽部
連絡先　〒106－0045　東京都港区麻布十番1-10-3　モンテプラザ麻布405
TEL:03－5570－4546　FAX:03－5570－4577
URL:http://www.tfcc.or.jp

活動の概要

子ども達に夢をあたえ「生きる力」を考えさせるきっかけや勇気を持って物事に立ち向かう大切さを知ってもらうため、各ジャンルの成功者達が、それぞれの独自内容で授業を行っています。学校訪問型は小学校を訪問して実施し、郊外型は様々な運動施設などを使って実施しています。
対象者　小学生

郊外型　水野 雄仁氏

活動の内容

(1)学校訪問スタイル

約90分(トーク&実技)
講師
プロ野球
工藤公康、小久保裕紀、仁志敏久、高橋尚成（以上巨人）、宮本和知、水野雄仁（元巨人）、斉藤和巳（ソフトバンク）、古田敦也、宮本慎也、五十嵐亮太（以上ヤクルト）、田中幸雄（日本ハム）、下柳剛（阪神）

小学校訪問型　工藤 公康

プロゴルファー
丸山茂樹、宮瀬博文
サッカー
永井秀樹（FC琉球）、阿部敏之（鹿島アントラーズ）、川口能活（ジュビロ磐田）、北沢豪、水内猛
タレント
KONISHIKI
相撲
芝田山親方（元横綱大乃国）、舞の海
テニス
沢松奈生子
柔道
古賀稔彦
競馬
武豊
アーティスト・歌手
浜崎あゆみ、前田亘輝、BOA、氷川きよし
アナウンサー
永井美奈子、中井美穂、田代尚子
建築家
隈研吾

(2)郊外スタイル

7月マルキッズゴルフスクール
（丸山茂樹）
8月相撲体験（芝田山親方）
12月チャリティーキッズ・ベースボールスクール2005年
2月千葉県ふるさと村自然体験教室

成果と課題

各界の「自分の夢」を達成した人が子供達と接することで子ども達が「夢」を持つこと、「目標」に向かって努力するきっかけづくりになっていることを確信しています。課題は著名人講師と小学校の日程調整がポイントとなりますが、人気ある講師ほど、日程がぎりぎりにしかでないのでより多くの講師陣をそろえて実施回数を増やしていくことです。

小学校訪問型　TJ3 前田・春畑氏

団体の概要

21世紀の人材創りを目的に、1987年に個人会員を中心に設立。会員には医者、歯医者、官僚、弁護士、公認会計士、国会議員、一級建築士、プロスポーツ選手、マスコミ、商社、大学教授、アナウンサーなど47名で構成。各種人材育成事業に取り組んでいる。

ここへおいでよ

実施団体名　明野子ども美術館
連絡先　〒407－0205　山梨県北杜市明野町浅尾新田385
TEL:0551－25－5340　FAX:0551－25－5405

活動の概要

3つの柱で活動しています。
1. 自然にかかわる手仕事と表現のとりくみ（自然とともだちシリーズ）
2. 地域とゆかりのある宮澤賢治の作品を題材としたとりくみ（ファンタジーをつくろうシリーズ）
3. 子どもたちにどんな文化を、どう伝えていけばいいのかをテーマにした講演会や研究協議（研究協議会）

活動の内容

自然とともだちシリーズ

自然や仲間を中心にすえて活動を続けてきました。自然や季節や地域にかかわった活動の中から、子どもたちや人間に必要なものを見つけだそうとしています。

・桑の実でつくろう（ジャムや染めものづくり）
・木工作をしよう（県産材をつかった自由木工作）
・秋を描こう（季節を感じて描く）
・森からの贈りもの（ワラ・竹・枝・つる・木の実でリース・かご・お正月飾り）

ファンタジーをつくろう

毎年秋に、明野子ども美術館の賢治祭を開催しています。これは、一地域から世界に向かって発信し続けた作家、宮澤賢治の物語（本年度はやまなし）を題材に、観客も出演してつくりあげる劇やお話しで構成する催しもので、本年で6回目になります。

ファンタジーを形に

木工作をしよう

催しに参加する方たちと春から少しずつイメージをつくりあげていって、みんなの思いを結集して秋の明野子ども美術館の賢治祭をつくっています。

詩と曲の募集

・ファンタジーをきこう（物語のよみきかせ）
・ファンタジーを描こう（物語を絵にする）
・ファンタジーを形に（物語にまつわる工作）
・ファンタジーを着よう（物語の衣装デザイン・製作）
・ファンタジーを歌おう（物語を題材にした歌づくり）
・ファンタジーを踊ろう（物語を題材にした踊りづくり）
・明野子ども美術館の賢治祭

研究協議会

いままでの活動をふりかえり深めていくためと、子育てを語り合う場を多く持つために、二つのシリーズの意味や結びつきを考える講演会や研究協議会を行いました。

・子どもの造形と自然
・賢治と嘉内
・語らいの親子にチャレンジできるか

ファンタジーを踊ろう

成果と課題

少人数制で一人ひとりの思いをいかして指導していくことで、参加した一人ひとりの喜びと力となっていることは感想文などからもうかがえますが、さらに参加者がそれぞれの地域にもどってリーダーとなることをめざします。また、今まで行ってきたことをまとめ、内容を深めるために年度ごとに重点をもうけて研究し、参加する方たち一人ひとりの研究も深められる体制をつくっていくことがこれからの課題です。

明野子ども美術館の賢治祭

団体の概要

幼児から思春期までの子どもたちの作品の展示を活動の中心とし、2，3ヶ月ごとに展示替えをして、紹介しています。
また、生活を切り拓く手仕事を重視し、伝えるべき手仕事はなんだろうか、ということを模索しながら、ほぼ毎月手仕事講座や研究会を催しています。

たのしい料理：健康な体に豊かな心つくり

実施団体名　ひまわりの会
連絡先　〒683－0851　鳥取県米子市夜見町2534－2
TEL:0859－29－4039　FAX:0859－29－4039

活動の概要

子どもたちが一緒に地産地消の料理を作る事により、身近に新鮮な野菜、魚、肉、食材、自然の残る地、そして医学指導と治療の点でも恵まれた地域に生活をしている事を大切にし、物事に感謝をする体験活動。また環境は少しずつ変化をしていきますが、健康な体と豊かな心で未来に向かい羽ばたいてくれる事。

活動の内容

＜年間7活動＞
第1回：7月4日地産地消の料理の体験活動
第2回：8月22日（午前）地産地消の体験活動
第3回：8月22日（午後）講演会
講師：鳥取大学医学部脳神経内科
竹島多賀夫 氏
演題：健康な体には健全な心がやどります
～朝食を食べ笑顔の挨拶と感謝の心をもちましょう～
第4回：9月26日地産地消の料理の体験活動

①白ハタのさばき方の指導を受け、初めての体験をする子どもたち

②白ハタをくし刺しにして乾燥させる

第5回：10月17日地産池消の料理（自然体験活動～弓ヶ浜）
第6回：17年1月30日地産地消の料理因伯牛肉と伯州1本ねぎを利用して
第7回：2月27日地産地消の料理(職場体験～鯵と白ハタの干物作り)

成果と課題

鳥取県米子市夜見町は、日本海側に位置し海、畑、近くに大山（だいせん）が有り、水は大山の伏流水と恵まれた地です。平成16年度子どもゆめ基金の助成を受け地産地消の食材を利用したのしく料理つくりの体験をしようと地元の農家の野菜畑を観察をした。

“弓ヶ浜でのおむすびつくりとバーベキュー”は、地元新米のおむすびと地場産業のお肉を使用し、子どもたちはおむすびを美味しそうに3～4個食べたと誇らしげに言っていた。国立米子高専の方々、地域の方々、多方面の方々にお世話になり活動をした。

“因伯牛肉、特に伯州1本ねぎ”は、地元の農家の無農薬ねぎを使用し、ねぎカツの料理の指導に、よろこび賞味した。普及したい料理です。

“鯵と白ハタの干物作り”では、魚をさばくのは、参加の子どもたち全員が初めてで、鯵が小魚やイカを食べている事を知り魚が切り身で売られる世の中で、感動の体験学習をした。

講演会において講師：竹島多賀夫先生の子どもに“朝食を取る事の大切さのお話”は参加の親も子どもも熱心に聞き質問にも十分時間をかけ、お答えをいただき、頭痛を訴え保健室へ逃避する子どもが減る事を願っています。アドバイスは、未来に生きる子どもの食生活に参考になると思います。

課題としては、地産地消の料理メニューをいかにして子どもたちと企画をするか、活動回数、時期の選定、活動場所の確保等が挙げられる。

③鯵が小魚やイカを食べていることを知る子どもたち

団体の概要

“食文化と食育の大切さを”～米子市は、歴史、文化、芸術、の発祥の地として多くの先人の知恵が残されている。それを知り学び次世代へ伝えたいと、子どもたちと共に体験活動をしている。豊かな自然の残る米子市を誇りに思う子どもたちが育つ事を願っています。

砂浜美術館ボランティア交流体験活動

～じんじんさんと創る幡多野点～

実施団体名　特定非営利活動法人　NPO砂浜美術館
連絡先　〒789－1911　高知県幡多郡大方町浮鞭3573－5
TEL:0880－43－4915　FAX:0880－43－1527
URL:http://sunabi.com

活動の概要

地域の人々とアートイベント「野点」をつくりあげている京都在住のアーティスト、「きむらとしろうじんじん」さんを迎え、高知県西部の幡多地域の高校生が企画・運営し創りあげる「幡多野点」を開催した。イベント当日だけでなく、準備段階からアーティストとともに作り上げていく。同じ幡多地区に住みながら、違う環境に住む高校生が交流し、自分の住む地域の良さを再認識してもらう。また将来的には、地域の中でリーダーシップを発揮できる人材育成にもつながることを願いこの取り組みを行った。

活動の内容

＜幡多野点準備＞

呼びかけに集まった高校生と5月に1回目のミーティングを開催した。野点開催は4回の予定。まずは開催場所を決めるための会議から始まった。自分が暮らす町で野点を開催したい場所を考えられる限りだしあった。次に実際にその土地をじんじんさんと歩いた。「この場所で野点を行ったらどんな雰囲気になるだろう」。来て頂くお客様の気持ちも考えながら歩いた。じっくりと歩くことが地域の再発見につながったり、地元の高校生が案内役をつとめることで、地域の方たちとの交流を持つことができたのも大きな収穫だった。高校生は同じ幡多地域に住んでいても、初めて訪れる地域が数多くあったようだ。開催場所が決定した後は、チラシ作りを進めた。

器に絵付け中

「開催場所の案内だけでなく、地域の観光スポットやお気に入りの場所の情報も入れたらいいのではないか」そんな意見も高校生の中からでて完成したチラシは、手作りの魅力あるものとなった。そして地域の人たちに自ら配りながら宣伝をした。学校の授業では味わえない、時間や学校の枠を越えたチラシ作りは貴重な体験になった。

＜幡多野点本番＞

幡多地域の4ヶ所で野点を開催した。遠くから来られる人もいれば、たまたま散歩していた地元の方がふらっと立ち寄ってくれたりした。お客さんは、用意された何種類かの器から自分の好きなものを選び絵付けをする。それを、約40分窯で焼き、いぶしてから水で洗うと出来上がり。そして、出来上がったばかりのお茶碗でお茶を飲んでいく。高校生たちは、お客さんに作業や工程の説明をしたり、世間話をしたり大忙しだった。4回の野点で200人近い人たちが会場へ訪れてくれた。

出来立てのお茶碗で

成果と課題

今回のイベントで、学校の枠や学年を超えて様々な交流が出来た。参加高校生は準備段階では外部から招いたアーティストとイベントの企画を一緒に練り、野点当日には「お客さん」として来る地域の人を迎える立場となるのだが、アーティストとの交流を通じて、それぞれの地域の良さを見い出し、何かしらの『自信』を各々が持つことが出来たようだ。最初は戸惑いながら参加していた者も自分の役割を見つけ、助け合いながらの運営が出来ていた。建物としての美術館は無くても自分たちの力で地域に文化的な催しを提示できたことは、卒業し、地域の構成員となる彼らにとって貴重な体験になったと思う。今回確立された高校生のネットワークを、今後も継続していくための方法を考える必要がある。幡多地域は交通の便が悪く、またエリアも広いため移動手段を確保するのが難しかった。参加する高校生の人数が増えれば増えるほど、各学校・地域で高校生をサポートする大人のスタッフをしっかりと確保することが重要であると思った。

団体の概要

「私たちの町には美術館がありません。美しい砂浜が美術館です。」というコンセプトのもと、身近な資源を「作品」化し、新しい価値観を創造する企画や情報発信を行っています。この活動は、豊かに、気持ちよく、そして楽しく暮らしていくためのひとつのものの見方を伝える非営利活動です。

平成16年度 十勝子どもの本連絡会 読書活動

実施団体名　十勝子どもの本連絡会
連絡先　〒080－0019　北海道帯広市西9条南14丁目10番地
TEL:0155－24－3721　FAX:0155－24－3737

活動の概要

「子どもの文化に大きな関心を十勝の子ども文化に豊かさを!」を目的とした活動を実施。十勝管内に点在している読書活動に関わる大人たちが、子どもたちと一緒に読書を楽しむための方法を提案していく取り組みを行っている。

学校でのおはなし会の様子を紹介

活動の内容

第17回十勝子どもの本フェスティバルでは、十勝で活動をしている読書サークル・学校での読み聞かせサークルの活動内容紹介とテーマを設定した児童書約1000冊の展示に多くの親子が寄り添いながら本を手に取り楽しんでくれた。

絵本作家　内田麟太郎さんをお迎えしての講演会では、創作に対する想いや親子の愛情をつなぐことの願いが強く伝わり、涙を浮かべながら熱心に聞き入る聴講者の姿に胸を打たれた。絵本の作り手の願いを受け入れる良い時間を持てたと感じることができた。

2日間で600人の来場があったおはなし会は、各サークル新作の発表や、工夫を凝らしたおはなしに子どもたちは先を争うように前へと詰め掛けていた。

紙芝居・パネルシアターの演じ方講座では、その特性を活かした表現方法に熱心にメモを取る受講者が多数見受けられた。マニュアル本だけでは理解しがたい歌や読み方の間などを紹介した実践的な講座に好評の声が多く寄せられた。

休日の開催ということも手伝い会場には親子での来場者が多く見受けられた。この数年は、父親の参加が多く喜ばしいことである。

華やかに飾られた入場ゲート

成果と課題

今年も多くの大人から、子どもの本を楽しむことの大切さを再発見したという意見を多く聞くことができた。他の学校の取り組みに触発されておはなしサークルを立ち上げたという報告も受けた。

読書活動を進めていくには、地域での継続的な活動と大人が児童書に興味や関心を寄せることが重要である。子どもたちは好きな人の語るおはなしの楽しさや温もりを忘れずに育っていくのである。

人が集い、何かを感じることのできるフェスティバルをこれからも継続的に開催していくことを目標とし、おはなし会の広がりを期待しつつ、語り手を育成していくことが今後の課題である。

団体の概要

北海道十勝支庁に点在する、子どもの本に関心を寄せる人たちが、日ごろの活動や経験を交流させることにより、広くわかち合い、十勝の子どもたちに優れた本との出会いの場をつくる活動をしている。毎年子どもたちの夏休みにあわせて開催している十勝子どもの本フェスティバルでは、子どもたちから元気をたくさんもらい活動を継続していくパワーを充電している。

長生村読み聞かせ活動2004

実施団体名　くりくりブック
連　絡　先　〒299－4336　千葉県長生郡長生村岩沼2119　長生村文化会館内
TEL:0475－32－5100　FAX:0475－32－5199

活動の概要

近年、テレビやゲーム、インターネットなどの情報発達や生活環境の変化により子どもたちの読書離れが指摘されている。そこで、子どもたちがことばを学び感性や想像力を豊かにすることを目的として読み聞かせ会を年4回実施した。また、併せて昔の遊び（わらべうた・折り紙）の講習会を開催し、歴史と伝統文化への興味を喚起し、核家族化が進む子どもたちに地域の大人との交流の機会を提供した。

どんなおはなしかな？

活動の内容

① おはなしの会の実施

季節ごとに年4回（8月・10月・12月・3月）長生村文化会館にて実施した。紙芝居やすばなし、絵本の読み聞かせなど多彩なプログラムで開催した。季節感を感じられるように、それぞれのおはなし会でテーマを決めて題材の選択に工夫している。また、それぞれのおはなし会にはプログラムに手遊びやお手玉、しりとりなどを取り入れ、昔の遊びを体験できて楽しい雰囲気になるように心がけている。

みんなおはなしに夢中です

《活動例》

8月プラネタリウムで聞くこわーいおはなし会

プラネタリウム室を使用してお化けや妖怪が出てくる怖い紙芝居や絵本、朗読を行った。照明の消えることがない現代ではめったに体験できない真の暗闇の世界で、大人も子どもも一緒におはなしを楽しんだ。

演目紙芝居「ばけものでら」絵本「ろくろっくび」

朗読「死の予告電話」「お話を知らなかった若者」「ちいちゃい、ちいちゃい」

② 講習会の実施

わらべ歌・手遊び講習会（11月）と折り紙講習会（12月）を行った。子どもたちに本物の体験をしてもらうため、専門的な経験と知識をもった外部の講師に依頼して開催された。

こわいおはなしが始まるよ

《活動例》

12月折り紙で遊ぶ冬のおはなし会

前半で折り紙講習会を行い専門の講師に直接子どもたちに指導してもらい、後半でクリスマスにちなんだ絵本の読み聞かせを行った。折り紙はサンタや靴下などを作り、クリスマスツリーの台紙に貼り付けてお土産とした。

成果と課題

《成果》

おはなし会に参加することにより、絵本や紙芝居、すばなしを聞くことができ、幼児・児童の豊かな心・感性・人間性を育む契機となった。その上わらべ歌・手遊び・折り紙講習会を通じて昔の遊びを体験して、乳幼児期からのことばの語りかけの大切さや物を作り出す喜びを体験した。また、おはなし会に来てくれた子どもたちの中にはボランティアを覚えてくれて、道で挨拶するなど地域の大人との異世代交流も盛んにすることが出来た。

《課題》

夏や冬のように講習会やイベントと平行しておはなし会を行うと参加者は多いが、普通のおはなし会だけであるとなかなか子どもが集まらない。日程を固定化したり広報活動を通して、より読書の裾野を広げ子どもたちの健全育成の手助けをしていきたい。また2005年度からはおはなし会を毎月実施できるように計画した。

団体の概要

「くりくりブック」は構成員15名で、主に長生村文化会館を活動拠点としておはなし会を開催している。テレビゲームしか知らない子どもたちが読書の楽しさを知り、手遊びやお手玉、折り紙など昔の遊びを体験できるように工夫している。また村内各小学校や学童保育所にも出張して読み聞かせを行っている。

あげおのむかしばなしの読みきかせ

実施団体名　上尾市青少年育成推進員協議会
連絡先　〒362－0037　埼玉県上尾市上町2－14－19
TEL:048－776－2488　FAX:048－776－2117

活動の概要

子どもたちは本来、本が好きです。まだ、字が読めないとか、自分で読書するのが面倒と思っている子どもたちに読みきかせをすることで、本の楽しさを知ってもらえる。子どもたちとふれあいながら本の面白さを伝え、また、上尾の昔話を通じて自分たちの住む地域への関心を持ってもらうことにより、地域の子どもたちの健全育成を目的とする。

児童館で読み聞かせ

冬休みに小学校の図書室で読み聞かせ

活動の内容

小学校での読みきかせを中心に、様々な機会に読みきかせを行うとともに、上尾市に関わる「お話」を集めたり、読みきかせの仕方を学んだりして、子どもたちに多くの本を紹介して、楽しんでもらえるように努めている。
①地区ごとに小学校と相談して、夏休み・冬休みに、図書室で子どもたちに本や紙芝居の読みきかせをしている。
②児童館で、幼児や小学生を対象として毎月1回、第3土曜日に、本の読みきかせ・紙芝居やパネルシアター等をしている。
③上尾の昔話に登場する史跡を訪ね、歴史的史実とその背景を学び、大石地区荒沢沼の「かっぱの三四郎」、上平地区平塚公園の「おおかみの足っこ」、上尾地区春日神社の「しょうつかの婆さん」、大谷地区神明神社の「金のごへい」、原市地区相頓寺「かなしい寅のはなし」、平方地区馬蹄寺の「ぐそうと馬」などの昔話の史実説明を受け読みきかせに役立てている。
④また、年2回、講師をまねいて読みきかせの講座を開き、読み手の技術の向上、人材の育成をしている。

児童館でおはなし会に参加した子どもたち

成果と課題

児童に本を読むことの楽しさや面白さを伝えることができ、また、郷土に対する関心を深めることができた。本の楽しさを伝えると同時に子どもたちの居場所作りができた。また、小学校での読み聞かせをする機会は広まっているが、さらに多くの学校で実施できるようにしていきたい。多くの子どもたちにたくさんの本を知ってもらい、豊かな感受性といろいろな興味・協調性など少しでも感じ取ってもらえるように活動を続けていきたい。

団体の概要

青少年育成埼玉県民会議から委嘱された上尾市の青少年育成推進員で組織し、青少年育成機関・団体と密接な連携を保ち、地域社会の青少年健全育成に寄与することを目的に活動している。活動としては、環境浄化活動・学校訪問のほか、毎月1回児童館で読みきかせや、小学校の長期休業中に読み聞かせをしている。

2004. 飯田読書推進活動

実施団体名　子どもの本研究会
連絡先　〒395－0035　長野県飯田市追手町2丁目677-3　飯田市立中央図書館内
TEL:0265－22－0706　FAX:0265－22－0235
E-mail:iida-lib@city.iida.nagano.jp

活動の概要

児童文学の楽しさ奥深さを知り、子どもと本を結びつけ読書の裾野を広げるように児童文学公開講座を行い、童話作家からみた児童文学を知るために「富安陽子講演会」を行った。また、教育学の面から、読み聞かせや読書の大切さを知るために「汐見稔幸講演会」を行った。

汐見先生による講演会

越高先生による講座

活動の内容

1. 児童文学公開講座

講師　子どもの本専門店ちいさいおうち
　　越高令子氏
演題　「リンドグレーンについて」

講師がスウェーデンで撮ったスライドを観ながらリンドグレーンの世界に触れた。

講座形式で行い、参加者との質問や感想を述べていただき、リンドグレーンのすばらしい世界を共有できた。リンドグレーンのテーマパークや小児病院があると知り、いかに児童文学が地域に愛されているかや児童文学の奥深さやすばらしさを知ることができた。

2. 講演会

1回　講師　東京大学大学院教育研究課教授　汐見稔幸先生
　　演題　「読み聞かせの大切さ」

教育学や今の若者の動向から読み聞かせの大切さを学んだ。読み聞かせボランティアをされている方や、保育士の方が多く聴講された。読み聞かせの効用の根本的なことを知り、明日の活動のかてとなる講演であった。評判もよく、再度の講演を希望される方が多かった。

2回　講師　童話作家　富安陽子氏
　　演題　「不思議への入り口」

童話を作り出す苦労や楽しさを学んだ。日頃、お聴きすることのできない童話を作る側の話を聞くことができて、大変参考になった。ファンだという中学生の男の子が遠くから講演を聞きに来てくれた。ヤングアダルト層の読書離れの歯止めに少しは貢献できたのではなかと思う。

成果と課題

子どもたちが本を読まなくなったといわれて久しくたっております。子どもたちに読書離れの歯止めをかけ、読書の楽しさを知り、読書の裾野を広げようと活動しております。読み聞かせボランティアの養成講座で人材育成を行い、各種の講演会をしてスキルアップに努めております。

今後、多くの人に読書の楽しさを知っていただくため、絵本作家や童話作家の講演会を続けて行っていきたい。また、花火のように大勢人を集めて行うことも必要であるが、地味ではあるが自分たちのスキルアップになる講座も組んでいきたい。子どもたちに読書によって生き抜く力を養ってほしいと思う。

団体の概要

昭和47年発足。現在会員40名。毎月1回子どもの本についての勉強会を行い、「まじっくぽけっと」という会のなかから生まれた読み聞かせボランティアグループが、小学校や保育園・育児サークル・老人ホームなどへ読み聞かせに行っている。会報月1回・文集年1回発行。研修旅行年1回。

子ども・本・ことば

実施団体名　「子ども・本・ことば」実行委員会
連絡先　〒521－1341　滋賀県蒲生郡安土町上豊浦1　安土町立図書館内
TEL:0748－46－6479　FAX:0748－46－6591

活動の概要

子どもたちが本と親しみ、楽しめるような環境づくりのため、親と子の関わりあいや、絵本の楽しさについて学べるような活動を実施した。

活動の内容

1. 講演会

演題「絵本の力～絵本は子育て親育て」
講師：松居直氏(福音館書店相談役)
内容：絵本のよさ、楽しみ方について

2. 原画展

絵本についての講演会（1）と同時期に「ぐりとぐらかるた」（中川李枝子文／山脇百合子絵　福音館書店）の原画展を開催し、同じ作者の絵本・本も展示した。

3. 連続講座

①「わらべうたで子育てを」
講師：平林智子氏（滋賀わらべの会）
内容：幼稚園で、保護者を対象とした講演会と、保育園で子どもと関わる大人たちを対象とした講座を開催した。乳幼児への言葉かけの大切さ・わらべうたの意味・遊びについて
②「子どもをまるごとうけとめて～子どもが育つみちすじ」
講師：佐々木正美氏(児童精神科医)
内容：子どもと親の関わり合いについて（読書の前の環境づくり）
③「楽しいおはなしと子どもの心」
講師：大月ルリ子氏（鴨の子文庫主宰・元甲南女子大学講師）
内容：子どもの読書に関わるボランティアを養成するため、おはなしの楽しみについて

4. 読書会

講師：今関信子氏（児童文学作家）
内容：対象は中学生。
中学生に作家とふれあってほしいという思いから実施した。本や読書の楽しみかたについて。本作りへの作家の思いなどを聞いた。

松居直氏のおはなしを、熱心に聞き入っていました

成果と課題

子どもの成長とともに、子どもとことば、本とのかかわりも広がっていく。子どもが絵本や本を楽しむ前に、親と子の関わり合いがあり、ことばかけを大切にしてほしいとの思いから、今回の講演会や講座を開催した。

乳幼児期には、子どもとの暮らしの中であらゆる場面にわらべうたがあることや、うたの意味、遊びを通して育っていくことなど、いくつかわらべうたを教わりながら学ぶことができた。

成長する過程では、子どもをまるごとうけとめていくことの大切さを学んだ。親と子どもとの関わり合いのなかで、親と子ども、大人と子どもの、ことばや気持ちの共有があり、それは、絵本やおはなしを楽しむことにつながっていく。

今回の講座、講演会を通して子どもとの関わり合いについて、子どもと本との関わり方について絵本について、より深く学べたと思う。

読書会では、講師が、作家になろうと思われた経緯や、著書への思い、作品を作っていく過程などについて話を聞くことができ、本や読書への興味・関心だけでなく、作家という職業、講師の人生観にも触れることができた。中学生と作家とのいいふれあいの場となった。

今後はこうして学んだことをふまえて、子どもたちに、本やおはなしの魅力を伝えていきながら、子どもたちの読書に関わる方や、子どもの読書に関心のある方対象の講座などを行いたい。

団体の概要

安土町内の公民館・幼稚園でのおはなし会や、小学校での絵本の読み聞かせを個々で行っているメンバーが集い、子どもたちに本を手渡すための活動や、また、本を楽しむ環境をつくるための講座や講演会を行っている。

子どもと作家をつなぐ「科学読み物」ライブ 池田子どもゆめ基金2004

実施団体名　池田子ども文庫連絡会
連　絡　先　〒563－0031　大阪府池田市天神2丁目1－17
TEL:072－761－9246　FAX:072－761－9246

活動の概要

3年続けてゆめ基金をいただき、子どもの読書の窓口を広げる活動に取り組んできた。本を紹介する側のおとなにとっても、科学の本は手に取りにくいという状況があり、科学絵本にも窓口を広げたいと、講演会を企画した。図書館との共催事業としてブックトークや科学遊びに取り組んだこともあるが、図書館から離れた地区の子どもたちも参加しやすいように、3ヶ所で、金尾恵子氏の原画の展示と講演会を開催した。　金尾氏は、「こうら」「いもり」「いしがめ」「らいおん」等多数の著書があり、「ファーブルこんちゅうき」の挿絵も描いている。

話に聞き入る子どもたち

活動の内容

(1)7月3日　10:00～11:30
ひつじ文庫
「ファーブルこんちゅうき」よりセミとアリのスライド上映。「いもり」と「やどかりくんのうちさがし」の本を読みながら、イモリやヤドカリの生態の話。原画を後で展示。

(2)7月3日　14:00～15:30
伏尾台文庫
イモリやヤドカリの生態やライオンの親子のことを原画を回覧しながら説明。子どもたちとの対話も弾んだ。

金尾先生による説明

(3)8月28日　15:00～16:30
五月山児童文化センター
セミとアリのスライド上映。幼児向けの絵本（ネコやヤドカリの本）を読んで原画を回覧。
3ヶ所とも、製作中の絵本「マングローブ」の試作本を見ながら、西表島の自然のすばらしさやマングローブの生態の話を伺った。マングローブの苗をもってきていただき、触ってみることができた。

成果と課題

作者から直に身近な生き物の生態や取材の過程を聞き、生き物や自然に対する関心が深まった。特に「イモリ」の飼育実験を聞いたり、マングローブの苗に触れたりすることで、今まで知らなかった動植物に新しい関心を持つことができた。学校を通じて、チラシの配布や本の紹介をしたことで、教師の参加もあり、来館者の層が広がった。

金尾先生の作品紹介

五月山児童文化センターでは、2005年8月25・26日、金尾氏の絵本づくりの講習会を開催予定。センターとのつながりができてよかったと思っている。子どもの行動範囲が狭いことを考えると、同じ話でも、複数の場所ですることができて、多くの子どもたちに科学絵本の楽しさを知らせることができた。実際に飼うところまでできれば、もっと効果があるのではないかと思う。

原画に見入る子どもたち

団体の概要

池田市内の文庫活動をしている団体の学習や情報活動をおこなう連絡会。1983年設立。連絡会ニュースの作成、お話会や読書会の開催、ブックスタート事業への協力等に日常的に取り組む。春の子ども読書の日と秋の読書週間には図書館と共催で、子どもの読書と文化への理解を深める活動を行っている。

こどもと本のかけ橋

実施団体名　こどもと本 ーおかやまー
連絡先　〒701－0161　岡山県岡山市川入90
TEL:086－293－0212　FAX:086－292－5929

活動の概要

幼稚園、小中学校、図書館、文庫、家庭などさまざまな場で、子どもと本を結ぶ活動をしている人に、高い知識と優れた技術を得る機会を提供し、本や読書を仲立ちにした健やかな子どもの育成を応援、実践する。

活動の内容

5月1日～9日
「世界のバリアフリー絵本展」
JBBYより、絵本、説明パネル等を借り受け「世界のバリアフリー絵本展」を中国地区で初開催。地元岡山はもとより、広島、香川、大阪、兵庫から延べ700人と予想以上の参加があった。

世界のバリアフリー絵本展

5月5日
講演会「だれもが楽しめる絵本作りをめざして」
講師　岩田美津子さん
絵本展の開催中に「てんやく絵本ふれあい文庫」の岩田さんの講演会を企画。全盲であっても子どもは自分の親に本を読んでもらいたい思いを受けてはじめた「てんやく絵本ふれあ

7月18日
自然観察会
講演会「身近な自然を見つめる」
講師　写真家　今森光彦さん
午前中は里山を講師と参加者で歩く。自然を守る会のメンバーも参加し、充実した観察会になった。

講演会

午後は、著書の紹介。昆虫の写真を撮り続けることで、自然と共存する意味を考え、生活圏の環境整備の必要性と取り組みについて、講演。

11月28日
講演会「絵本の育て方―絵本を読むこと　作ること―」
講師　作家　いとうひろしさん
ご自分の子育ての中から生まれた絵本、本作りについて、子どもに対する真摯な姿勢が参加者に共感を与えた。

1月22日
ワークショップ
手作り人形作り「にわとり」と演じ方お話会を運営する上で、重要な導入部分に使える、手袋人形制作を企画。テーマに関する、絵本・本も紹介し、読み方・演じ方などを情報交換する。

成果と課題

5周年を迎え、今年度は本や絵本の多様性と可能性を広げたいと考え、活動を企画。
優れた写真家の今森さんと一緒に里山を自然観察した。大人が参加した子どもたちの生き生きとした様子を見ることで、体験によって本が生かされることを目の当たりにした。世界のバリアフリー絵本展や講演を行ったことで、障害があるなしにかかわらず、すべての子どもが読書に親しむ機会を持つ意味について考えた。様々なバリアフリー絵本を実際に見、知ることから、障害を持つ子どもたちへの読書の可能性を広げることができることを実感した。
5回の企画は参加者も多く、従来の読書関係者のみにとどまらず、広がり始めている。さらに運営委員が要請を受けて、出前講座、出前文庫を全県下の市町村で行い、受講者から活動の必要性を期待されている。
今後も充実した企画と運営を続けていくことが課題である。

自然観察会

団体の概要

「2000年子ども読書年」を契機に、子どもと本の出会いを大切に豊かな人間性を育てるため、大人と子どもが共に楽しむ活動をすることを目的とし、講演会の開催、子どもの本の展示会、大人のための出前講座、子どものための出前文庫、子どもの本を知るための勉強会や実務研修会、赤ちゃん・幼児絵本のブックリスト作成などを行っている。

ベジタブル読み聞かせ活動

実施団体名　ベジタブル
連　絡　先　〒822－0121　福岡県鞍手郡若宮町湯原1409
TEL:0949－54－0320　FAX:0949－54－1237

活動の概要

家庭での絵本の読み聞かせ、色々な活動の場（公民館や保育園、幼稚園、小・中学校、高校など）で読み聞かせをするため、よりレベルアップのため、勉強会を行う。また、広域に渡り、ネットワークを広げ、グループ間の交流を広げるため、絵本作家を招いて、講演を聴いた。

人形劇後の紙芝居

活動の内容

8月

夏休みに、子ども46名、大人33名が集まり、読み聞かせのレベルアップとお互いの交流をはかった。まず子どもと大人に分け、大人は読み聞かせの心得、日頃の読み聞かせについての悩みなど相談し合う。子どもたちは手作りのおもちゃをつくったり、読み聞かせの勉強をし、あとで発表しあった。

中学生に絵本の読み聞かせ

2月

2年間続けて絵本作家とよたかずひこ氏を迎え、絵本の作り方や考え方、読み方等を教わった。また、とよた氏の原画を見たり、登場人物について色々な事を聴いた。

男子高校生が幼児親子に読み聞かせ

成果と課題

勉強会、講演を聴く事で、心豊かになり、読み聞かせのレベルアップにつながった。今後はいかに家庭や活動の場で楽しく読み聞かせをすることが出来るか、さらに勉強し頑張っていきたい。

「食べ物さんありがとう」野菜大好き！

団体の概要

ベジタブルは土のにおいのする生野菜を使って食育をテーマに人形劇の公演や心を豊かにする絵本の読み聞かせ、笑顔のでる手遊びをしたり、手作りおもちゃで遊んだりなど、年間35回以上公演をしているグループです。メンバーは10代～70代の幅広い年齢層からなる25人のグループで今年で13年になります。おかげさまで、福岡県民運動アンビシャスで第1回表彰団体、平成16年度全国地域に根ざした食育コンクールで優良賞をいただき、毎日頑張っています。

木城えほんの郷 子どもの本と文化講座2004

実施団体名　木城えほんの郷みどりのゆりかご協会
連絡先　〒884－0104　宮崎県児湯郡木城町大字石河内475
TEL:0983－39－1141　FAX:0983－39－1180
E-mail:ehon@mnet.ne.jp　URL:http://www.mnet.ne.jp/~ehon/

活動の概要

子どもたちが幼児期から本の楽しさを味わい読書に親しむことができるように、絵本の読み聞かせやおはなしを親子で体験する機会をつくる。また、子どもと本をつなぐ試みをワークショップの形で取り入れ、季節の特色を生かして本の世界を子どもたちと共有する場をつくる。

緑陰おはなし会

活動の内容

(1)「親子で楽しむおはなし会」

木々の緑が春の喜びをうたう季節GW期間中の7日間、緑の中のテラスで毎日5、6人チームをつくって1回に、20～30分の絵本の読み聞かせを1日5回～7回行った。親と子だけでなく、おじいちゃん、おばあちゃんも読んでもらう楽しさを味わった。

(2)「つくってあそぼう わくわく万華鏡づくり」

夏休みに子どもたちが科学に興味をもってほしいと自然の草花、虫、石ころなどを入れて万華鏡に写るふしぎな世界をわくわく体験した。

(3)「土と火のまつり」

土をこね、火をたいて器をつくり、その器に自分だけの風景をつくる遊び。

(その1)「土をこねてつくろう」では、粘土で思い思いに色々な器をつくった。

(その2)「火をみつめる　火でつくる」では、(その1)でつくった器を野焼きで焼いた。原始時代から人々が土をこね、形をつくり、火で焼き上げて器をつくったときのように火をみつめ、耳をすまし、目をこらしながら冬の夜を体験した。

土と火のまつり その1

(その3)「私の風景づくり」では、焼き上げた器を取り出して、器に土をいれ、野山でみつけてきた草木やこけ、石などで自分の風景をつくった。3回とも関連する絵本の読み聞かせを行った。

(その4)「木の実・草の実であそぼう」前日に、野山に出かけ、赤や黄色の木の実を採集し、当日は関連本の紹介や絵本の読み聞かせを行い、その後、どんぐりでこまや、やじろべえをつくったり、クリスマスリースやお正月飾りをつくった。

土と火のまつり その2

成果と課題

絵本は、読んでもらうと楽しいという体験を、まず大人がすることが大切でその後に子どもに読んであげようとする気持ちが生まれてくる。「親子で楽しむ緑陰おはなし会」では、はじめは余り関心のない大人たちも参加し、楽しむうちに興味をもってくれた。繰返し継続して、多くの人たちに本の楽しさを知る機会をつくっていきたい。「つくってあそぼうわくわく万華鏡づくり」「土と火のまつり」「木の実・草の実であそぼう」の子どもの本ワークショップは、子どもたちの探究心を引き出し、生きた絵本体験の場となった。様々な方法で、子どもと本をつなぐ方法をこれからも考えていきたい。

木の実・草の実であそぼう

団体の概要

緑豊かな自然の中にある木城えほんの郷は、絵本文化を中心に演劇や音楽に親しむことを通じて、山村と都市の人々との交流を図り、人間の感性を育むことを目的として、1996年に設立された公共的任意団体である。

詩人が街にやってきた ～言葉との出会い～

実施団体名　コミュニケーション未来研究会
連絡先　〒414－0002　静岡県伊東市湯川522－1
TEL:0557－32－4880
E-mail:infomirai@poetry.gr.jp　URL:http://www.poetry.jp

教材の概要

難解といわれる現代の詩を、より子どもたちの身近なものとするために、地方の学校の教室や町のホールで詩の朗読会を開催します。生徒児童だけでなく、先生たちも生の朗読を聞いたことのある人はほとんどいません。それだけに、それぞれの会が貴重な体験となっています。

そして、生徒たちと詩人との触れあい、詩人の肉声による自作朗読を聞くことで詩を身近なものとして、楽しむことが出来るようになります。また、地方での朗読をインターネットでライブ中継。さらにその蓄積をオンデマンドライブラリーとして公開しています。

この表紙から、ライブやオンデマンドライブラリーを見ることが出来ます

教材の活用方法

平成16年度は、山口県の久賀町（現在周防大島町）の久賀中学校で、高橋睦郎、中上哲夫、片岡直子の3人の詩人と、演奏家も兼ねた吟遊詩人フジマル◎ヒデミの4人が、福井県大野市の富田小学校で、清水哲男、

江刺市での質疑応答の様子

正津勉、ぱくきょんみ、フジマル◎ヒデミの4人が、岩手県江刺市の生涯学習センターで岩谷堂小学校の生徒たちに、高橋順子、野村喜和夫、和合亮一の3詩人にジャズの尾山修一、ケミー西岡の合計5人が朗読と音楽のライブを繰り広げました。

前半には子どもたちの自作詩の朗読を聞き、それについての詩人の感想。また、子どもたちは「なぜ詩人を目指したのか」というような素朴な質問を詩人にするなど、質疑応答。このとき、子どもたちが朗読用に詩を書き、また、他の生徒が書いた詩と自分の詩を比べ、代表を選ぶことで書く力、読む力を養います。

後半は、詩人の朗読。これは、作者が読み、時に解説するという意味で、一般的な読み聞かせとは全く違う詩への深い理解をもたらします。

教材の普及状況

オンデマンドライブラリーも、年を追って閲覧できる詩人の数が充実してきています。また、詩人の許可を得て朗読作品についてはテキストを掲載。文字で読み、そして聞くことで詩作の意図や思い入れを、より深く鑑賞出来るようになります。

詩の授業のおりに、ライブラリーの朗読を鑑賞し授業に活用することも可能です。教科書に作品が載っている詩人も多く、より親しみを持って詩に触れることを期待できます。

課題としては、ブロードバンドの普及が都市部に偏っており、いまだにISDN回線しか通じていない地方の学校ではなかなか動画や音声をスムーズに見られないことです。過渡期の現在は、DVD化して希望者に配布することも視野に入れて考えています。

これからは、より積極的な広報活動などを通じて、なるべく多くの学校や教育施設で見ることが出来るように周知されるようにしていきたいと考えています。
と考えています。

大野市の子どもたちが自作の詩を朗読

団体の概要

現在は主に詩を中心としたワークショップや朗読会をイベントとして開催したい方からの相談を受け、詩人やミュージシャンの紹介から会の企画、運営、実施までを引き受けます。また、音楽、絵画、演劇など様々なジャンルのグループと協力し、芸術全般をフィールドとした情報発信とプロデュース活動を目指しています。

沖縄危険生物デジタル辞典

実施団体名　沖縄県マルチメディア教育研究会
連絡先　〒901－2215　沖縄県宜野湾市真栄原1丁目13番1号 宜野湾市立嘉数小学校内
TEL:098－898－2630　FAX:098－898－2637
URL:http://jiten.edu.u-ryukyu.ac.jp/

教材の概要

沖縄の豊かな自然に触れ親しむために、学校教育や社会教育分野において様々な体験学習のプログラムが作成されている。しかし、楽しく自然体験学習を行うためには、危険な生物の特性や対処法等の知識について予め学習しておくことが必要だと考える。

そこで、沖縄に生息する様々な危険な動植物に関する学習情報のコンテンツとして『沖縄危険生物デジタル辞典』を開発した。

教材の活用方法

コンテンツの特徴としては、子どもたちが簡単な操作で楽しく学び、危険生物について正しく理解できるように様々な工夫をしている。

コンテンツの構成は、①安全に遊ぶために、②代表的な危険生物、③危険生物を調べよう、④どれくらい分かったか試してみよう、⑤けがをしたときの連絡先、⑥お母さんお父さんのための検索、⑦保健施設などへのリンク、以上の七つのコンテンツで構成されており、その主な特徴を紹介したい。

まず、一つ目は、子どもたちに親しまれるようにキャラクターデザインを工夫しているが、単なるイラストではなくてアニメーション効果を加え、このサイトのナビゲーター役として活躍していく。

二つ目の特徴として、危険生物の生態、特徴、遭遇時の対処法、怪我をしたときの応急処置が一連の流れで理解できるようになっており、調べる際にもアイコンのクリックだけで地域（生息場所）や生物の種類、季節や時期などから絞り込めるようになっている。さらに高度な検索として複数の検索条件での検索もできるようにしている。

三つ目の特徴は、どこでも使えるようにインターネットブラウザを介して配信しており、CD-ROMでの利用についてもWindowsのみならずMacintoshへも対応しておりどの学校でも使えるようになっている。さらに、非常時に利用できるように携帯電話向けに、応急処置や近くの医療機関等の情報を配信できるようになっている。

四つ目に、代表的な危険生物についてはショートストーリーの動画を準備し、ナレーションも分かりやすく子どもたちの興味・関心を引き出すように工夫している。

教材の普及状況

本教材は、琉球大学のサーバーから配信し、全国どこの学校・施設からでも利用できるようになっている。動画等もありブロードバンドでないと厳しい状況もあるが、県内では沖縄県情報教育研究大会においてCD-ROM等での配布も計画している。今後は教育委員会並びに関係団体への普及も図っていきたい。

団体の概要

本研究会は沖縄県内の小学校の教員で組織され、児童の情報活用能力の育成を目指し、デジタルコンテンツを活用した教材開発や授業実践を行っている。また、沖縄県の情報教育の推進のために毎年、情報教育実践研究大会を開催し研究発表並びに授業実践を公開している。ちなみに、平成15年度は沖縄県で全国大会を開催し運営にあたった。

日中韓子ども童話交流事業

事業の概要

日本・中国・韓国の子どもたちが一堂に会し、各国の絵本・童話を通じて読書の楽しみを知ってもらうとともに、お互いの文化を理解する機会を提供することにより、子どもの読書活動や体験活動の重要性について普及・啓発を図るため、「日中韓子ども童話交流事業実行委員会」を組織し、超党派の国会議員で構成される「子どもの未来を考える議員連盟」（事務局長：河村建夫文部科学大臣）の参画を得て「日中韓子ども童話交流2004」を実施しました。

今回は、「星」をテーマに日本を代表する童話作家・宮澤賢治のふるさと岩手と東京を舞台に小学校4年生から6年生の子ども100名（日本50名、中国25名、韓国25名）が集い、一週間の日程で開催しました。

事業の内容

東京の国立オリンピック記念青少年総合センターに参加者が集合、3ヵ国混成の10グループに分かれ、そろいのTシャツを着て結団式、森喜朗実行委員会委員長（前内閣総理大臣）からご挨拶を頂きました。続いて、宇宙飛行士・毛利衛さんから宇宙の話を聞いたり、国立国会図書館国際子ども図書館で「日本・中国・韓国の昔話集」の読み聞かせや館長の説明で各国の絵本の閲覧を行い、日本科学未来館では宇宙と地球環境の展示を興味深く見学しました。

岩手では県立花巻農業高等学校による民俗芸能「鹿踊」、北上市立岩崎小学校による民俗芸能「鬼剣舞」、劇団の演じる「セロ弾きのゴーシュ」を鑑賞し、盛岡市立東松園小学校の子どもたちと昔遊びやゲームで交流を行いました。

実行委員会委員長・前内閣総理大臣の森喜朗衆議院議員を迎えて結団式

宮澤賢治記念館では、「雨ニモマケズ」を各国語で朗読しました。小岩井農場で岩手の自然にふれ、夜は星座観察。曇天で星空が危ぶまれましたが、急に晴れわたり満天の星空を心に刻みました。

そして、グループごとに手作り絵本づくり、シカ（日本）、パンダ（中国）、トラ（韓国）の3匹の各国を象徴する動物に気持ちを託して取り組み、10編の絵本が出来上がりました。グループ全員で協力して

みんなで協力して絵本作り

絵本の発表会

作った10編の絵本を舞台で発表、各班のファンタジーあふれる作品に感動の輪が広がりました。

解散式では3カ国の子どもの代表が「童話交流に参加できて幸せでした。この交流がずっと続くことを願っています。」（抄）と宣言文を発表した後、別れを惜しみながら、再会を誓い各自帰途につきました。

「日本・中国・韓国の昔話集」について

この本は、「日中韓子ども童話交流事業」の一環として作成いたしました。

内容は、日本、中国、韓国の昔話を集めた絵童話本です。

第1巻は、日本、中国、韓国の共通の昔話

第2巻は、各国の代表的な昔話

第3巻は、小学校の低学年から読める昔話で構成しています。

日本語、中国語、韓国語の3ヵ国語併記となっており、おそらく世界ではじめての試みと思われます。それぞれの国の母国語を強調した各3巻を作成いたしました。

「日中韓子ども童話交流事業」で使用するとともに、日本語版2万8000セットを全国の小学校及び公立の図書館等に、また中国語版、韓国語版を両国の図書館等に寄贈しました。最寄の各施設においてご覧下さい。

子どもゆめ基金への寄附団体

平成16年度は次の団体から寄附を頂いています。　（あいうえお順・敬称略）

株式会社アクアテック	財団法人丹後あじわいの郷
アスカフユーチャーズ株式会社	中央無線タクシー協同組合
株式会社石野電気	株式会社テムス
巖建設株式会社	東鉄ビルメン株式会社
栄光電気株式会社	社団法人日本経済青年協議会
特定非営利活動法人SSSスポーツクラブ	日本シティビルサービス株式会社
岡田銀三郎	日本テクノストラクチャア株式会社
株式会社宏隆	社団法人日本理科教育振興協会
特定非営利活動法人コミュニティ21	ビステオン・ジャパン株式会社
株式会社サンテックス	フジフユーチャーズ株式会社
財団法人社会経済生産性本部	株式会社ホマレ電池
有限会社鈴木商会	MACYジュニアテニス選手育成チーム
株式会社清和ビジネス	ミュージカルひろば実行委員会ポップコーン
株式会社善光堂印刷所	森永フードサービス株式会社
株式会社全日警	有限会社ユウキ産業
全日本遊技事業協同組合連合会	リンク情報システム株式会社
タフカ株式会社	渡辺工業株式会社

子どもゆめ基金へのご協力を

子どもゆめ基金は、国と民間が協力して青少年教育に関する団体が行う子どもの体験活動や読書活動などの振興を図り、子どもの健全育成に寄与するものです。

このため、個人、企業からもご協力をいただき、基金の拡大を図り、幅広くその活動を支援することにしています。

つきましては、下記の募金口座にて受付しております。広く皆様の御理解と御支援を何卒お願い申し上げます。

郵便振替口座

口座番号	00150-5-371382
口座名義	子どもゆめ基金

※振込に便利な郵便振替払込書を中に綴じておりますので、御利用ください。

銀行口座

銀 行 名	東京三菱銀行　　渋谷支店
口座番号	135－3025103
口座名義	子どもゆめ基金

子どもゆめ基金に対する御寄附は、税制上の優遇措置を受けることができます。

子どもゆめ基金ガイド2005　2005年9月発行

編　集　独立行政法人国立オリンピック記念青少年総合センター基金部
発　行　独立行政法人国立オリンピック記念青少年総合センター
〒151－0052　東京都渋谷区代々木神園町3番1号
電　話　管理課：03－6407－7702　助成課：0120－579081
ＵＲＬ　http://cs.kodomo.nyc.go.jp/yume/index.html
E-mail　yume@nyc.go.jp

「子どもゆめ基金」は独立行政法人国立オリンピック記念青少年総合センターの登録商標です。

独立行政法人
国立オリンピック記念青少年総合センター